

令和5年度

夏季・冬季 地域医療特別実習

報告書

熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本県地域医療支援機構
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

はじめに

日頃より、地域医療支援センターならびに地域医療・総合診療実践学寄附講座の活動にご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。令和5年度の夏季・冬季地域医療特別実習報告書をお届けいたします。ご高覧いただけますと幸いです。

この実習は、熊本県医師修学資金貸与を受けている熊本大学医学部等の学生、および県出身の自治医科大学の学生の皆さんに、近い将来、医師として活躍する県内の地域医療等の状況を知ってもらうことを目的に、例年行ってきたものです。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行から、様々な社会経済活動が停滞せざるを得ない状況が続き、この実習も3年にわたり休止を余儀なくされました。令和5年5月に、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことを機に、ようやく本実習も4年ぶりに再開する運びとなりました。とはいえ、新型コロナウイルス感染症の流行が、完全に終息したわけではありません。

そのような中、本年は夏季・冬季の2回の実習を実施することができました。夏季実習にあたっては、実施期間、訪問施設や地域を絞り込むなど、規模を縮小した構成で行うこととしました。そのため、やや密なスケジュールとなり、訪問先でお話を伺い地域を観察するための、十分な時間を確保することができませんでした。しかし限られた状況下でも、学生の皆さんは真摯に実習に取り組み、その成果は、最終日の全体発表会で拝見することができました。一方、冬季実習では、地域でのフィールドワークはできませんでしたが、3つの診療所を含む6つの医療機関と2つの高齢者施設を訪れ、医療や福祉の最前線で尽力されている医師や職員の方々の熱意に満ちた生の声も聞くことができました。

この特別実習は、学生の皆さんにとって普段の授業や実習などでは得ることができない貴重な学びの場であり、教員やスタッフにとっても、学生の皆さんと交流する重要な機会であることを、あらためて認識した次第です。私たちは、この実習が熊本の地域医療が抱える問題解決の一助となることを、信じています。

最後になりますが、夏季実習を行うにあたりご協力いただいた上天草市、天草市、湯島、および御所浦の病院をはじめ関係者の皆さま、冬季実習を行うにあたりご協力いただいた阿蘇市、小国町、産山村をはじめ、各病院や施設の皆さまに、深く感謝を申し上げます。そして、いつもお世話になっている熊本県医療政策課の皆さま、地域医療支援センター、および地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員やスタッフの皆さんに、心よりお礼を申し上げます。

熊本大学病院

総合診療科 教授

地域医療支援センター センター長

松井 邦彦

もくじ

はじめに	1
------------	---

地域医療特別実習について	3
--------------------	---

夏季地域医療特別実習（天草上島地域）

夏季地域医療特別実習の概要	6
グループワーク	9
夏季実習の様子	19
夏季実習参加学生アンケート結果	23
夏季実習を振り返って	35

冬季地域医療特別実習（阿蘇地域）

冬季地域医療特別実習の概要	44
冬季実習の様子	48
冬季実習参加学生アンケート結果	53
冬季実習を振り返って	60

おわりに	63
------------	----

地域医療特別実習について

■ 実習の目標

一般目標

- ① 地域を知り、地域との関係性を構築する
- ② 将来、地域に求められる医師となる

行動目標

- ① 地域住民と交流する
- ② 地域の現状を様々な視点から知る
- ③ 地域の課題の解決・改善策について発表する
- ④ 学生間で交流を深める
- ⑤ 地域で求められる医師像について考察する

■ 実習のねらい

「地域を知る」実習を通して...

医療関係者として地域から
自分たちが期待されていることを自覚する

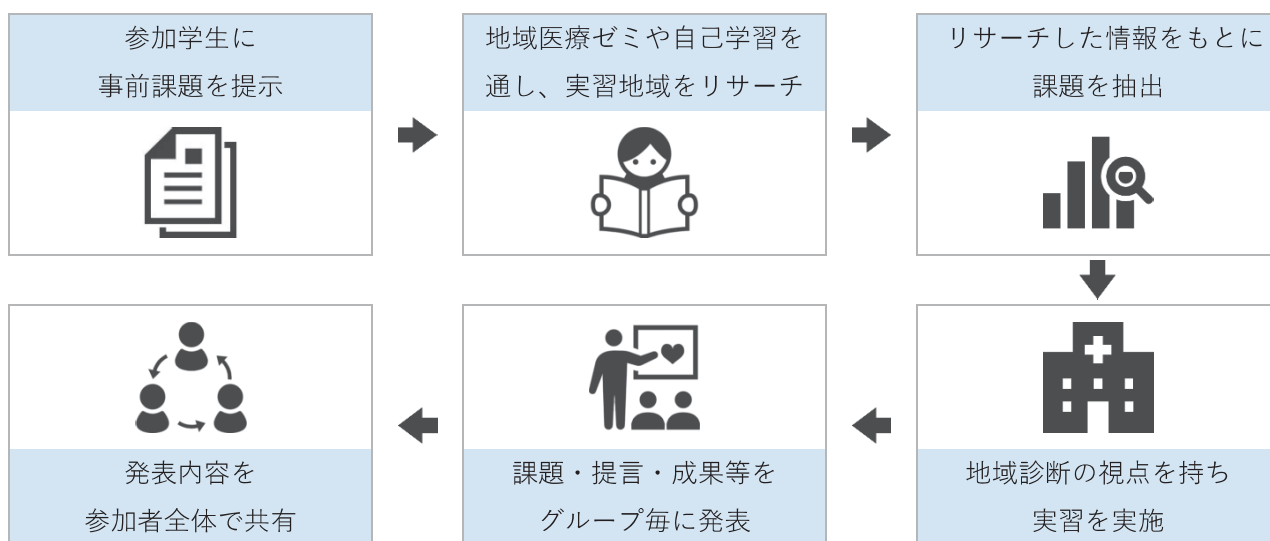
地域特性や課題に応じた
地域包括ケア、自助、互助、共助の
現場を体験する

コミュニティの中で、
それらのサービスを提供する側の視点と
生活者としての利用する側の視点の違いを知る

医療・福祉・行政サービスの
提供／利用のされ方の実際をみる

地域によって異なる健康課題があることを
分析することにより、将来、医療者として
どのような地域でも求められる健康課題に
携わるための示唆を得る

■ 実習の主な構成



■ 事前学習課題

① 地域の特徴

- 該当する二次医療圏とその特徴
- 地理・地勢的特徴、自然・気候など
- 歴史文化的な沿革、自然環境・気候など
- 経済、主産業、労働人口の構成
- 交通インフラ（共通資本）と移動手段など
- 教育、政治・行政・役所、消防、それらの出先公共機関など

② 人口動態、寿命、死亡、罹患・有病資料

量的データ（統計、アンケート調査結果などの数値化されたデータ）を用いて、国の人口動態統計データ、自治体の統計データ、各種保健統計データ、アンケート調査のデータにアクセスし、これからフィールドワークを行うエリア、自分の住む地域と都道府県、全国の値と比較してみましょう。

- 人口動態（総人口と推移、出生・死亡、3区分別人口割合、世帯数と割合）
- 有病・罹患・主要死因

③ 寿命、余命、健康寿命

- 平均寿命、健康寿命とその推移

④ 健康増進や疾病予防、政策

- 健康増進や疾病予防、関連要因に対する政策や財政、それらのデータ

⑤ 地域包括ケア、自助や互助

- 地域包括ケアの事例や取り組み
- 自助・互助の事例や取り組み

夏季地域医療特別実習

夏季地域医療特別実習の概要	6
グループワーク	9
夏季実習の様子	19
夏季実習参加学生アンケート結果	23
夏季実習を振り返って.....	35

夏季地域医療特別実習の概要

■ 夏季地域医療特別実習について

夏季地域医療特別実習（以下「夏季実習」）では、これまで、熊本県医師修学資金の貸与学生及び、熊本県出身の自治医科大学医学部生を対象に、熊本市外の地域を訪れ【地域を知る】ことに視点を置いた企画・構成で実習を行い、例年、2泊3日の日程で地域を訪問し、医療機関等の見学型実習及びフィールドワーク（地域の産業や観光資源、地域に暮らす人々の生活の視察等）をメインとして、実際に地域を“見て・聞いて・感じる”ことで、参加学生が多方面から広く地域を知ることができるような内容を心がけ取り組んでまいりました。

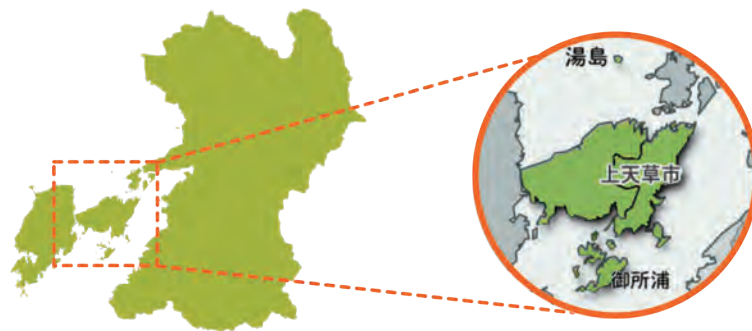
この度の夏季実習は天草上島地域で1泊2日の実施となりましたが、上天草市、天草市、湯島、御所浦などの自治体や医療機関、地域住民の方など、多くの皆さまのご理解とご協力のもとでの充実した実習となりました。湯島、御所浦の両離島でのフィールドワークをはじめ、グループでの活動が中心となり、グループ毎の全体発表も行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、日程の短縮や訪問先のエリアや施設数を減らす等して、例年より規模を縮小して4年ぶりに実施した今回の実習では、夏季実習を経験したことがない学年が多くおりましたが、コロナ禍以前に参加経験のある上級学年が各グループの中心となり、各場面で実習をリードしてくれました。実習の詳細については、次頁以降にまとめています。

■ 開催日程及び実習地域

【実習日程】 2023年8月16日（水）～8月17日（木）

【実習地域】 天草上島地域（上天草市湯島、天草市御所浦）



■ 参加学生

- 熊本県医師修学資金貸与学生（熊本大学医学部）・・・9名
- 自治医科大学医学部生（熊本県出身者）・・・11名

■ 実習スケジュール

【1日目】 8月16日（水）

8:00~8:15	集合・受付（熊本大学病院）
8:30~10:00	移動（熊大病院 → 上天草市役所） ※移動中にオリエンテーション・アイスブレイク
10:15~11:25	講話（上天草市役所・松島庁舎 保健センター）
11:30~11:40	移動（貸切バス：上天草市役所 → 昼食会場）
11:40~12:30	ランチミーティング（リゾラテラス天草）
12:40~	移動（グループ毎にフィールドワーク先へ移動） ○ 湯島グループ ・13:30~15:00 <u>湯島診療所見学&島内フィールドワーク</u> ○ 御所浦グループ ・13:40~15:30 <u>御所浦診療所見学&島内フィールドワーク</u> 移動（グループ毎に上天草総合病院へ移動）
16:15~17:15	病院等見学（上天草総合病院、上天草看護専門学校）
17:15~17:30	移動（貸切バス：上天草総合病院→よしやホテルきらら停）
18:00~19:30	懇談会・意見交換会（よしやホテルきらら停）
20:00~22:00	全体発表の事前準備
	宿泊 よしやホテルきらら停（上天草市龍ヶ岳町樋島 565-25）

【2日目】 8月17日（木）

7:00~	朝食
8:20	集合（よしやホテルきらら停 ロビー）
8:30~ 8:45	移動（貸切バス：宿泊先 → 上天草総合病院）
9:00~10:45	全体発表 考察（上天草看護専門学校）※各班から実習の成果等を発表
10:45~11:10	会場撤収作業・休憩
11:20~11:55	移動（貸切バス：上天草総合病院 → 昼食会場）
12:00~13:00	ランチミーティング（松島観光ホテル岬亭）
13:10~15:10	移動（貸切バス：昼食会場 → 熊大病院）
15:15	事務連絡・解散

参加者一覧

・参加学生	熊本県医師修学資金貸与学生 (熊本大学医学部)	6年 岩井 秋子、富士登 璃子 5年 古池 雅明、高田 理香子、原 裕介、園川 仁美 3年 岡本 健太郎、永野 七海、福田 真也
	自治医科大学医学部生 (熊本県出身者)	5年 住吉 祐亮、堀 太渡、田中 大樹 4年 加藤 綺美、橋本 和旺 3年 松川 朋樹、萩尾 悠生、直井 優斗 2年 前川 祐貴 1年 宮城 涼羽、陶山 泰智
・引率・随員スタッフ	熊本大学病院	地域医療 支援センター センター長 松井 邦彦 特任助教 高柳 宏史 コーディネーター 無田 英昭、川添 光芳、原田 淳子 事務補佐員 横手 友紀子
		地域医療・総合診療 実践学寄附講座 特任准教授 荒木 智 特任助教 佐土原 道人、北村 泰斗 事務補佐員 山並 美緒
		総合診療科 医員 早川 香菜美
	熊本県	へき地医療支援機構 専任担当官 小山 耕太 健康福祉部医療政策課 主幹 朝永 剛史
外部講師	阿蘇医療センター 平賀 円、松岡 隼平 天草市立河浦病院 下地 徹	
・実習協力機関等(懇談会参加者含)	熊本県へき地医療医師の会	会長 片岡 恵一郎 (小国公立病院 病院事業管理者) 田浦 尚宏 (人吉医療センター)
	上天草市	市長 堀江 隆臣 健康福祉部 部長 濱崎 裕慈
	上天草市立上天草総合病院	事業管理者 岸川 秀樹 病院長 脇田 富雄
	上天草市立湯島へき地診療所	所長 空田 健一
	天草市立御所浦診療所	所長 古賀 義規 医師 松田 圭史
	外部講師	松本内科・眼科 理事 松本 朋樹
	教育拠点スタッフ	地域医療・総合診療実践学寄附講座 河浦教育拠点 特任助教 鶴田 真三
協力施設及び ご協力いただいた皆様	上天草市/天草市/上天草市立上天草総合病院/上天草看護専門学校/上天草湯島へき地診療所/天草市立御所浦診療所/よしやホテルきらら停/旅館ひのしま荘/九州産交バス/長福丸(海上タクシー)/ハーミーズ(海上タクシー)/天草観光タクシー/(有)御所浦タクシー/協和タクシー/近畿日本ツーリスト	

グループワーク

■ フィールドワーク

今回は大きく2つのグループに分かれ、湯島グループ（湯島A・B）は鳩の釜港から、御所浦グループ（御所浦A・B）は大道港から海上タクシーに乗船し、各島へ向かいました。到着後は、それぞれ島内の診療所を訪問し、島での診療体制や患者の傾向等についてお話を伺い、施設見学を行いました。その後、島内で地域視察を行い、住民の方の生活模様や観光産業等に触れました。

🚢 湯島グループ(上天草市大矢野町湯島)



【湯島A】

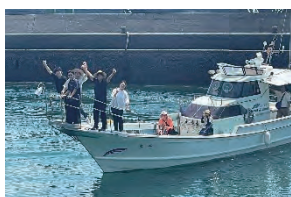
岩井 秋子、園川 仁美*、橋本 和旺、
福田 真也、萩尾 悠生


【湯島B】

富士登 璃子、原 裕介*、堀 太渡、
直井 優斗、陶山 泰智



*…グループリーダー



 御所浦グループ(天草市御所浦町)



【御所浦 A】

高田 理香子*、田中 大樹、岡本 健太郎、
松川 朋樹、前川 祐貴

【御所浦 B】

古池 雅明*、住吉 祐亮、加藤 綺美、
永野 七海、宮城 涼羽



*…グループリーダー



【フィールドワークの様子がテレビで放送されました！！】

天草地域のテレビ局である天草ケーブルネットワーク様に、湯島グループのフィールドワークに同行取材していただき、その様子が、天草市専門チャンネル「あまくさ日々」内で放送されました。放送内容は、熊本県地域医療支援機構ホームページでご覧いただけます。



熊本県地域医療支援機構
ホームページ

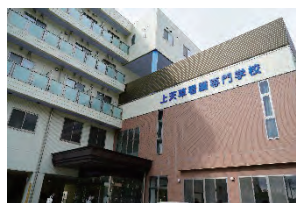


■ 全体発表会

上天草看護専門学校 2階 講堂をお借りして、参加学生による夏季実習の全体発表会を行いました。

はじめに、上天草総合病院 脇田院長より同病院の概要や取組み等についてお話いただきました。その後、事前学習の内容や今回の実習で知見、成果をグループ毎にとりまとめ発表を行いました。発表に対して、学生、教員ともに多くの意見や質問があげられ、また、脇田院長からも発表に沿って、湯島診療所での勤務時代や長年にわたり天草の地域医療に携わってこられた経験をお話いただきました。

最後に主催者を代表し松井センター長が、全体発表及び今回の実習全体について講評を行いました。



■ 湯島 A グループ



令和5年度（2023年度）夏季地域医療特別実習



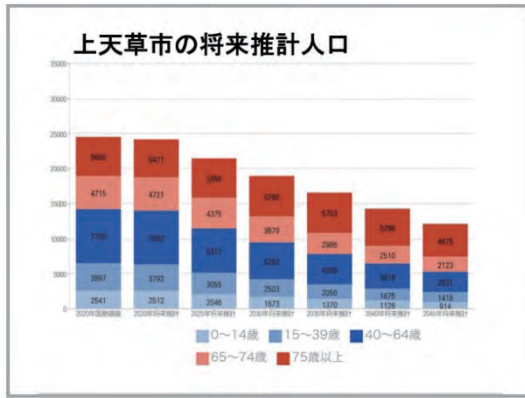
湯島 A 班
 熊本大学6年 岩井秋子
 熊本大学5年 園川仁美
 熊本大学3年 福田真也
 自治医科大学4年 橋本和旺
 自治医科大学3年 萩尾悠生

[1]

上天草市の特徴(※は全国の数値)

面積		126.91km ²
国勢調査人口	(2015年)	27,006人
	(2020年)	24,563人
人口増減率	(2015～2020年)	-9.05% (※) -0.75%
高齢化率	(65歳以上・2020年)	42.00% (※) 28.00%
人口密度	(2020年)	193.50人/km ² (※) 338.20人/km ²

[2]



上天草市と熊本県の職種別人員数の比較

職種	上天草市	上天草市 (人口10万人あたり人員数)	熊本県
医師	39.00	158.78	268.94
歯科医師	10.00	40.71	78.24
薬剤師	20.00	81.42	123.63

[4]

離島における在宅生活の基盤づくりに向けた取り組み
(熊本県上天草市湯島地区)

離島の為、地理条件が悪く、在宅サービスの進んでいない湯島地区において、高齢者が住み慣れた家や地域で暮らし続ける為に、地域の実情に応じた介護福祉サービス、生活支援サービス等の在宅生活の基盤づくりに取り組む

【取組内容】

- 住居検討会の実施
- 全世帯住民ニーズ調査の実施
- 緊急通報システム設置
- ヘルパー養成講座実施
- 地域づくり講演会
- 旅館を改修し、つとめ拠点(介護予防拠点)の整備
- 高齢者から子どもまで地域住民の集いの場づくり」事業の実施

【事業成果】

- 65歳以上の高齢世帯等の31世帯に緊急通報システムを設置し、安心して自宅で生活が可能になった。
- 介護サービス事業所での従業員を見込んで、湯島内で11名のヘルパーを養成し、事業所開設に至るまでの間は介護予防事業に活用。
- 地域支援事業として、配食サービスを行う湯島高齢者見守り事業が平成24年度より開始。
- 地域住民主体の教職、茶話会、体検などを行う介護予防事業等の検討、運営を継続して行うとの方向性が図られた。

(厚生労働省ホームページより抜粋)

[5]

エリア行程表

訪問先名	活動内容	感想など
上天草市 健康福祉部	講話	上天草市の成人保健、母子保健、障害者支援、介護について学んだ
リゾラテラス天草	昼食	カルパッチョとステーキでボリュームもあり美味しかった
湯島	湯島診療所訪問、講話、散策	実際の診療の話聞き、島を歩いて、湯島の医療の課題を学んだ
上天草総合病院	講話、病院施設見学	講話と病院見学で上天草総合病院が担う役割やできることを学んだ

[6]

フィールドワークでの成果など

- ・視診や踏査で気づいたこと
- ・島までの移動は、船を出していただいて10分ほどかかった。
- ・急な坂道や狭い路地が多く、少し坂道を登るだけで息があがった。
- ・車を運転するほどの道幅がないため、車を使う場面が限定される。
- ・各訪問先で見たこと、感じたこと
- ・患者さんの苗字が主に「渡辺、松尾、森、古賀、高橋」の5つ。
- ・事前学習との違い、再認識したこと
- ・離島の診療所で働く医師は休みがないものだと思っていたが、実際は週に2日の休みと不定期で休診日を設けていた。

[7]



[8]

考察

- ・湯島には坂道が多く、周りの住民と交流するだけでも身体に負担がかかる。私たちが踏査してもかなり疲れたため、高齢の方への負担はより大きいものだと考える。
- ・少子化が進む湯島では、小中学校の全校生徒が少ない。そのような環境で、高校や大学に行くという選択肢を選ぶ子供は少なく、島のリーダーとなる人材が育ちにくいと考える。
- ・事前学習と実際に体験したこととの違いの考察
- ・湯島診療所では、仕事と生活のバランスを保ちながら暮らすことができそうだと考察する。

[9]

地域の課題

- ・課題1 住民は湯島で最期を迎えたいが、湯島には介護施設がないため、希望通りの最期を迎えることが難しい。
- ・課題2 高校や大学へ行く子供が少なく、これからの島を担うリーダーとなる存在が育ちにくい。
- ・課題3 台風などで船やドクターヘリが動かせないときは、患者さんを島外の病院へ運べない。

[10]

謝辞

本発表を行うにあたりこのような機会を設けてくださった熊本大学地域医療支援センターや総合診療実践学寄附講座の方々のご協力に感謝すると共に上天草市役所、上天草総合病院のスタッフの皆様方には貴重なご指導を賜ったことを深く感謝いたします。

大学ではもちろんの事、医師になっても経験できないような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

[11]

夏季実習「川柳／肥後狂句」

- 第1編 灯台へ 坂道のぼるも やおいかん
- 第2編 寝転べば 猫もともども みぞらしか
- 第3編 野を歩み 猫につれられ さりゆてみた
- 第4編 分け入っても分け入っても草
- 第5編



今回の肥後狂句の笠(お題)は、以下の通りです。
この笠に、七、五をつけて、五、七、五の句してください。熊本弁、風刺や笑い歓迎。
・のさつとる(授かる、豊富だ、幸運だ) ・なかたなか(無いものはない)
・みぞらしか(可愛らしい、Lovely) ・やおいかん(ずんないかない)
・さりゆてみた(歩き回ってみた) ・のうならんごつ(なくなるないように、Sustainable)
ナチメ上ア(上天草市の観光プランディングのキャッチフレーズ)
その他、ご自由に(川柳)

[12]

ご清聴
ありがとうございました



[13]

■ 湯島 B グループ



令和5年度（2023年度）夏季地域医療特別実習

エリア：湯島B
 グループメンバー：熊本大学6年 富士登 璃子
 5年 原 裕介
 自治医科大学5年 堀 太渡
 3年 直井 優斗
 1年 陶山 泰智

[1]

事前学習で分かったこと

- 事前学習で分かった地域の特徴や課題(湯島)

島原と天草の中間に位置し、1時間で島を一周する大きさ。
 坂が多く、アコウの木が群生している。
 人口は260人程度。
 島内には公共交通機関がなく、本土までは船で25分程度かかる。
 医師1名、看護師2名が常駐している。
 歯科診療も行う(月3回)

[2]

事前学習で分かったこと

- 統計資料（全国、熊本市と比較して）など

主要死因の構成と順位その推移

死因	順位	構成率	順位	構成率	順位	構成率
悪性新生物	1位	24.1%	1位	23.5%	1位	23.5%
心疾患	2位	18.2%	2位	18.1%	2位	18.1%
脳血管疾患	3位	12.3%	3位	12.2%	3位	12.2%

各種住居検診および検診受診率

検診項目	全国	熊本県	上天草市
がん検診	71.2%	71.2%	71.2%
がん検診	71.2%	71.2%	71.2%
がん検診	71.2%	71.2%	71.2%

医療費とその現勢

医療費	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県
医療費	11,200億	11,200億	11,200億	11,200億	11,200億
医療費	11,200億	11,200億	11,200億	11,200億	11,200億
医療費	11,200億	11,200億	11,200億	11,200億	11,200億

介護認定状況の推移

介護認定	熊本県	熊本県	熊本県	熊本県
介護認定	11,200人	11,200人	11,200人	11,200人
介護認定	11,200人	11,200人	11,200人	11,200人
介護認定	11,200人	11,200人	11,200人	11,200人

[3]

事前学習で分かったこと

- 湯島の特徴的な取り組み：地域包括ケア、自助・互助の例

離島の為、地理条件が悪く、在宅サービスの進んでいない湯島地区において、高齢者が住み慣れた家や地域で暮らし続ける為に、地域の実情に応じた介護福祉サービス、生活支援サービス等の在宅生活の基盤づくりに取り組む

- 65歳以上の高齢者等の31世帯に緊急通報システムを設置
- 湯島内に11名のホームヘルパーが養成された。
- 地域支援事業として離島高齢者見守り事業が平成24年度より開始
- 地域住民による介護予防事業等の検討、運営を継続して行うとの方向性が図られた。(5) 介護予防事業の実施を目的とした「つどい処よんなせ」の改修

「<https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/chiiki-houkatsu/files/432121kiamamakusasi.pdf>」

[4]

事前学習で分かったこと

- 地域についてWebなどで調べて分かったこと(湯島)

島民たち(260人)より数が多いと言われる猫たちが、のんびり暮らす猫の島。

「島原・天草一揆」の際、島原と天草の住民たちが戦略会議をしたことから「談合島」とも呼ばれている。

島までは、江樋戸（えびと）港から1日5往復している定期連絡船で約25分。

名物は湯島大根や、新鮮な魚介。

「熊本県公式観光サイト：
<https://kumamoto.guide/spots/detail/11509>」

[5]

湯島エリア行程表

訪問先	活動内容	感想など
上天草市役所	講話(健康づくり推進課、福祉課、高齢者ふれあい課)	特定検診の受診率の低さ、喫煙率の高さ、介護福祉における社会資源の不足などたくさん課題があることが分かった。
湯島	湯島診療所、島内散策	内視鏡、レントゲン、歯科など設備が充実していた。坂が多く、公共交通機関がないため足腰がきたわれそうだった。
上天草総合病院	病棟の説明、施設案内	地域の総合病院としての役割や、介護との連携などをみることで、地域でも臨床に加えて研究をしていってほしい先生方もいることがわかった。

[6]

フィールドワークでの成果

・湯島診療所で空田先生の話聞いて

①島の外の大きな病院に搬送するか微妙なラインの患者さんの診断が難しい

②医療情報の偏り
島という狭いコミュニティの中で生活しているために、医療情報の偏りがしばしば生じる。
→正しい情報を普及させる必要

湯島の地形、風土を考慮し、島民に最大限寄り添った地域医療が施されていた。

[7]

フィールドワーク 湯島

①湯島診療所

<診療所について>

- ・医師1人、看護師2人で、平日の水曜以外に診療している
- ・院内には、電子カルテ・内視鏡室・レントゲン室・産科治療室がある
- ・毎週日曜に歯科医師に来てもらい、歯科診療をしている
- ・限られた薬剤から処方している

<気づいたこと、湯島ならではのこと>

- ・紙カルテが保存されていたが、苗字が5つ程しかなかったことに驚いた
- ・（古賀、渡邊、松尾、森、高橋）
- ・高齢者の方は薬があれば治るという気持ちが強いので、減薬した方が良い際に、それを理解してもらうのが難しい
- ・休みが取れるので、比較的余裕のあるスケジュールを確保できる
- ・ワークライフインテグレーションを確立できる

[8]

【レントゲン撮影室】



【診察室】



【内科診察室】



【内視鏡室】



[9]

②湯島灯台

1916(大正5年)に作られた、高さ12mの灯台

灯台まで急な坂を10分ほど登りましたが...

草が生い茂っていて、海は景色はほとんど見えませんでした

登る前の場所からの景色がよも良かったです






[10]

結論・考察・感想

- ・実習を通じて、地域を知ることができたか
視診や踏査、診療所の空田先生からのお話で、島民の方々が湯島の坂道が多い環境で生活されていることや、運動は日常的にされていること、医療や薬剤に対する知識の特徴があることなどを話を聞いたり実際に見ることができたりした。
- ・事前学習と実際に体験したこととの違いの考察
高齢化は進んでいるが、島内の医療で賄いきれなくなった高齢者が島外に出ていっていることは知らなかった。
- ・感想
実際行ってみて雰囲気を感じてみたら、時間がゆっくり流れており暖かい雰囲気であることが伝わってきた。
観光の目玉として猫を取り上げることも納得できるほど猫が多い島の魅力が伝わってきた。
- ・学びになったこと
島という閉鎖空間では医療への知識が偏ることがあること、島内の環境を考慮した医療を提供することが大切であることを学ぶことができた。



[11]

地域の課題と提言

- ・課題1 坂が多く、転倒によるADLの低下が考えられる。
→ふらつきやすい薬を減らしたり、血圧を下げすぎない
- ・課題2 介護資源が乏しい
→ヘルパーの育成、派遣の強化、自助互助の活性化
- ・課題3 人口減少
→観光業を強化し、湯島を知ってもらおう。

[12]

川柳/肥後狂句

第1編 むぞらしか しまのべんちで とけるねこ

第2編 腰を曲げ 海辺向かうは ななめうえ

第3編 さりゆてみれば 藍に緑に とりどりかな

第4編 のうならんごつ 寄り添う彼らの 汗輝く

第5編 離るども 狭き猫島 なかたなか

[13]

謝辞

上天草の夏季実習に携わっていただいた方々
このような貴重な機会を設けていただき、本当にありがとうございました。



[14]

■ 御所浦 A グループ



令和5年度（2023年度）夏季地域医療特別実習



(御所浦 A)
グループメンバー：
高田理香子
田中大樹
松川朋樹
前川祐貴
岡本健太郎

[1]

事前学習で分かったこと

- ・事前学習で分かった地域の特徴や課題
 - ①高い若年男性喫煙率
 - ②低い若年(40～50代)世代の特定健康診断の受診率
 - ③高い乳幼児の齲歯率
- ・地区の特徴的な取り組み
 - ①二歳児の歯科検診
 - ②小学校でのフッ素うがいの実施

[2]

御所浦エリア行程表

	訪問先名	活動内容	感想など
1	リゾラテラス天草	昼食	美味しかった！ 
2	御所浦診療所	実習	施設が綺麗！ バリアフリー 住み良い〇
3	御所浦島内	フィールドワーク	山登りー絶景 道幅が狭く、急勾配 救急車入れない 
4	上天草総合病院 上天草看護専門学校	実習	二次救急の要！

[3]

フィールドワークでの成果など

- ・御所浦診療所の宿舎はとても綺麗であり、診療体制もきちんとしており住みやすいのではないかと感じた。
- ・自動車の通ることのできるほど幅の広い道路は少なく、急勾配であるため、往診などは少し苦勞するのではないかと感じた。

[4]



[5]

結論・考察・感想・謝辞

- ・実習を通じて、地域を知ることができたか
 - 小学生くらいの子供が思ったよりもいた。
 - 自分たち世代は少なく、お話であった通りだった。
- ・感想
 - 登山もあり、全体を通してとても楽しい実習だった。上天草での地域医療実習を通して、僻地医療に関しての知識はもちろん、土地について感じ、学ぶことができた。
- ・学びになったこと
 - 荒天時には患者の島外への搬送が難しいことを身をもって感じた。だからこそ御所浦診療所の島民のかかりつけ医としての役割を再認識できた。

[6]

地域の課題と提言

- 課題1：子育て世代の高い喫煙率
→母子手帳交付時や定期健診時のアンケート、情報提供
→中高生からの喫煙に関する教育
- 課題2：ソーシャルキャピタルの不足
- 課題3：慢性腎臓病、糖尿病の高い罹患率

【7】

夏季実習「川柳／肥後狂句」

第1編
のさつとる 先達ありし よりどころ

第2編
やおいかん 結婚式と 瓦割

第3編
やおいかん 急遽始まる 山登り

第4編
ナナメ上 坂道こみち ねこのみち

第5編
のうらんごつ 船と灯りと 酒のびん

第6編
みぞらしか 童の影の 告げる夏

【8】

■ 御所浦 B グループ



令和5年度（2023年度）夏季地域医療特別実習

エリア：（御所浦B）
グループメンバー：K5 古池雅明
K3 永野七海
J5 吉住祐亮
J4 加藤綺美
J1 宮城涼羽

【1】

事前学習で分かったこと～地域の特徴や課題～

- 御所浦町には御所浦島、牧島、横浦島の3つの有人島がある
→3つの島に2つの診療所で足りるのか
- 人口は2750人ほど
→高齢者の割合は？
- 天草本土への移動に船が必要
- 恐竜の島

【2】

事前学習で分かったこと～統計資料より～

診療科	御所浦町	天草市	天草郡	天草県
総合診療科	7	17	17	17
産婦人科	1	1	1	1
小児科	0	0	0	0
内科	1	1	1	1
外科	0	0	0	0
歯科	0	0	0	0
その他	0	0	0	0

- 天草医療圏について
 - 全国平均と比較して産婦人科系診療所、小児科診療所の施設数が少ない。

【3】

事前学習で分かったこと～統計資料より～

診療科	御所浦町	天草市	天草郡	天草県
総合診療科	7	17	17	17
産婦人科	1	1	1	1
小児科	0	0	0	0
内科	1	1	1	1
外科	0	0	0	0
歯科	0	0	0	0
その他	0	0	0	0

- 天草医療圏について
 - 人口10万人あたり病床数は全国平均を大きく上回り、特に療養病床が多い。

【4】


御所浦エリア行程表

	訪問先名	活動内容	感想など
1	リゾテラス天草	昼食	美味しかった！ お肉がジューシーだった🍖 塩パンサイコロ！！
2	御所浦診療所	講和	診療所-役者さん！ 一働きやすそう！！ 時間をかけて診察できるのいいな😊
3	鳥峠	フィールドワーク	きつい！ふくらはぎにくる！ でも上から見た景色きれいだった！
4	御所浦物産館 しおさい館	休憩	ブラックモンブラン美味しかった！

【5】

フィールドワークでの成果など

- 意外と家多い！
- 坂が多い！！
- お家に畑がついている家が多い！
- 信号が一つだけ！
鳥の子供達が大人になった時に困らないように
信号が設置してあるんだよ！
- 意外と子供いる😊



【6】

フィールドワークでの成果など

- 高齢者の割合
→約55%！慢性疾患や定期処方が多い
- 水俣病手帳を持っている人が多い
→高額な薬も出しやすい傾向
- 総合診療内科の一日診療は20人くらい。
一人の患者さんに10分くらいかけても足りる！
- 天草本土へは船が必要であり天候に左右される。

【7】

地域の課題

- 課題1 高度な少子高齢化
- 課題2 交通の不便さ
- 課題3 すぐにできない検査がある
- 課題4 山頂までマイクロバスが行けないこと
頑張って歩いた分、山頂の景色により一層心奪われました

【8】

夏季実習肥後狂句




やおいかん
途中で止まらず
マイクロバス

【9】

謝辞

短い時間ではありましたが
御所浦地区での体験はとても貴重なものでした。
ありがとうございました



【10】

夏季実習の様子

■ オリエンテーション・アイスブレイク

天草へ向けての移動バスの車内で佐土原先生より、夏季実習についての説明がありました。その後、平賀先生の進行で、アイスブレイクが行われ、自己紹介や各班でグループ名決めを行いました。



(グループ名)

湯島 A:「猫に触れ合いたい」、湯島 B:「攻めの大根」、御所浦 A:「イグアノドン」、御所浦 B:「猫見たかった」

■ 講 話

上天草市役所 松島庁舎 保健センターで、上天草市 健康づくり推進課、福祉課、高齢者ふれあい課から各課所属の保健師より、上天草市の医療・保健・福祉の状況についてお話いただきました。

上天草市の健康の実状について（健康づくり推進課）

保健師が地域で担う役割について、健康づくり推進課の主な業務内容（国保事業係、健康増進係、母子保健係）について、また同市の成人保健分野、母子保健分野の現状及び課題、対策についてお話いただきました。



上天草市の障がい者（児）施策について（健康福祉課）

上天草市に暮らす障がい者（児）に向けた福祉計画について、その背景及び目標、施策や、自立支援のための地域生活支援拠点の整備状況についてご説明いただきました。また、同市の障害福祉の課題についてもお話いただきました。



上天草市の介護等に関わる状況（高齢者ふれあい課）

上天草市における高齢者割合や医療・介護の現状、同市での地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業、任意事業）の概要、地域包括ケアシステムの強化にあたって多職種連携の重要性についてお話いただきました。





■ ランチミーティング

リゾラテラス天草でランチミーティングを行い、この後に行うフィールドワークのスケジュール確認等を行いました。



■ 病院等見学（上天草総合病院・上天草看護専門学校）

上天草総合病院 病院事業管理者 岸川 秀樹 先生より、上天草総合病院の診療体制や設備、地域との関わりについてお話いただきました。その後、院内各フロアをご案内いただき、救急外来の処置室などを見学させていただきました。



■ 懇談会・意見交換会

今回の夏季実習の実施にご協力いただいた、上天草市、熊本県へき地医療医師の会、上天草総合病院等、関係機関の皆さまにもご出席いただきました。参加した学生は来賓の皆さまや外部講師、随行スタッフと、これからの地域医療や、医療と行政の関わりなどについて懇談し、交流を深めました。

地域医療支援センター 松井センター長の開会の挨拶後、上天草市 堀江市長、熊本県へき地医療医師の会 片岡会長にご挨拶いただき、上天草総合病院 脇田院長に乾杯のご発声をいただきました。その後、熊本県へき地医療医師の会の紹介及び所属医師による挨拶がありました。

会食中、貸与学生の代表学生ならびに自治医科大学の代表学生による学生挨拶が行われ、本実習への取り組みや、将来、地域医療を担う医師になるにあたっての抱負などが述べられました。

終わりに、熊本県へき地医療支援機構 小山専任担当官より、閉会のご挨拶をいただき終了となりました。



■ フォトボイス

学生にはフィールドワーク活動中に会った特徴的、象徴的な場面や、人物、風物、風景などを写真におさめてもらいました。その撮影した写真については、懇談会、意見交換会の中でボイス（その写真について感じたこと等）を添えて、グループ毎に発表してもらいました。

○ 湯島 A	○ 湯島 B
 <p>撮影地：湯島のオコウネ島南側 撮影日時：2023/08/16</p> <p>ボイス：オコウネ島の島民の生活</p> <p>グループ：動物城/湯島 A/16</p> <p>2023年度夏季地域実習特別実習 フォトボイス</p>	 <p>撮影地：湯島のオコウネ島南側 撮影日時：2023/08/16</p> <p>ボイス：オコウネ島の島民の生活</p> <p>グループ：動物城/湯島 A/16</p> <p>2023年度夏季地域実習特別実習 フォトボイス</p>
 <p>撮影地：湯島のオコウネ島南側 撮影日時：2023/08/16</p> <p>ボイス：オコウネ島の島民の生活</p> <p>グループ：動物城/湯島 A/16</p> <p>2023年度夏季地域実習特別実習 フォトボイス</p>	 <p>撮影地：湯島のオコウネ島南側 撮影日時：2023/08/16</p> <p>ボイス：オコウネ島の島民の生活</p> <p>グループ：動物城/湯島 A/16</p> <p>2023年度夏季地域実習特別実習 フォトボイス</p>
<h3>○ 御所浦 A</h3>	<h3>○ 御所浦 B</h3>
 <p>撮影地：御所浦住宅街 撮影日時：2023/08/16</p> <p>ボイス：おもしろい</p> <p>グループ：動物城 A</p> <p>2023年度夏季地域実習特別実習 フォトボイス</p>	 <p>撮影地：御所浦住宅街 撮影日時：2023/08/16</p> <p>ボイス：おもしろい</p> <p>グループ：動物城 B</p> <p>2023年度夏季地域実習特別実習 フォトボイス</p>
 <p>撮影地：御所浦住宅街 撮影日時：2023/08/16</p> <p>ボイス：おもしろい</p> <p>グループ：動物城 A</p> <p>2023年度夏季地域実習特別実習 フォトボイス</p>	 <p>撮影地：御所浦住宅街 撮影日時：2023/08/16</p> <p>ボイス：おもしろい</p> <p>グループ：動物城 B</p> <p>2023年度夏季地域実習特別実習 フォトボイス</p>
 <p>撮影地：御所浦住宅街 撮影日時：2023/08/16</p> <p>ボイス：おもしろい</p> <p>グループ：動物城 A</p> <p>2023年度夏季地域実習特別実習 フォトボイス</p>	 <p>撮影地：御所浦住宅街 撮影日時：2023/08/16</p> <p>ボイス：おもしろい</p> <p>グループ：動物城 B</p> <p>2023年度夏季地域実習特別実習 フォトボイス</p>

夏季実習 参加学生アンケート結果

■ アンケートの目的

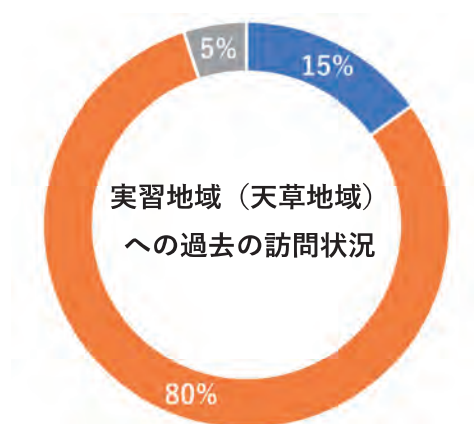
- 夏季地域医療特別実習の教育的効果と「地域を知る」ことができたのかの検証
- アンケートに回答することによる参加者の自己省察促進
- 今後の運営や企画の改善のため

■ アンケート回答者の構成

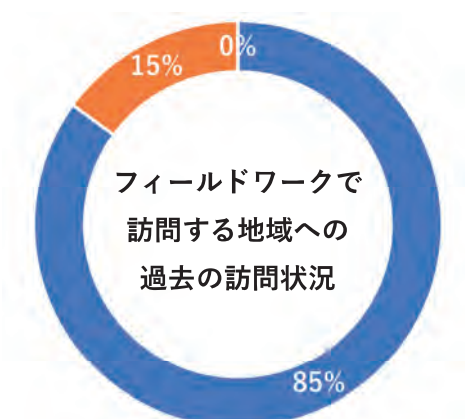
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
熊本大学	0	0	3	0	4	2	9
自治医科大学	2	1	3	2	3	0	11
合計	2	1	6	2	7	2	20

男性14名、女性6名

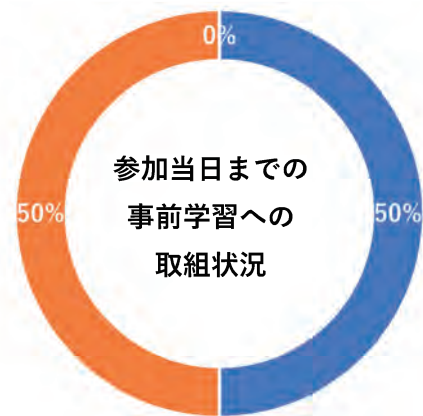
■ 実習前後アンケート



- 一度も訪問したことがない
- 訪問／滞在したことがある
- 一時期でも居住したことがある



- 一度も訪問したことがない
- 訪問／滞在したことがある
- 一時期でも居住したことがある



■ 手引きとワークブックの内容に従って、インターネットなどで実習先の事前情報を検索・収集した

■ 手引きとワークブックの内容に従って事前学習はしていないが、インターネットなどで自分なりに興味のある情報を調べた

■ 全く行っていない

■ 次の各項目に対する現在の自身の知識量について

1 = 全く知らない（聞いたことがない） 2 = 用語・単語として知っている（聞いたことがある）

3 = 何となく知っている 4 = 少し概説できる 5 = 詳しく説明できる

項目	実習前	実習後	p 値
1. 地域包括ケアシステム	3.1 ± 0.7	3.8 ± 0.6	0.0009
2. 地域医療構想	2.8 ± 0.8	3.5 ± 0.7	0.0036
3. 地域医療計画	2.5 ± 0.7	3.2 ± 0.8	0.0096
4. へき地診療所	3.3 ± 0.6	4.2 ± 0.9	0.0013
5. 病々連携・病診連携	2.8 ± 0.6	3.4 ± 0.8	0.0057
6. 多職種連携／チーム医療	3.2 ± 0.8	3.8 ± 0.8	0.0121
7. 在宅医療／訪問診療	3.5 ± 0.8	4.0 ± 0.8	0.0141
8. 2025 年問題	2.7 ± 1.0	3.5 ± 1.1	0.0075
9. 医師不足／医師偏在	3.3 ± 1.0	4.0 ± 0.8	0.0047
10. 少子・高齢化社会	3.5 ± 0.9	4.2 ± 0.9	0.0018
11. 人口減少・多死社会	3.5 ± 0.9	4.0 ± 0.8	0.0289
12. ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）	2.5 ± 1.0	3.5 ± 0.8	0.0008
13. SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）	3.1 ± 0.8	3.6 ± 0.9	0.0210
14. アドバンス・ケア・プランニング（ACP；愛称「人生会議」）	2.9 ± 1.2	3.3 ± 1.0	0.1845
15. SDH（Social Determinant of Health：健康の社会的決定因子）	2.4 ± 1.0	2.9 ± .07	0.0053
16. 健康日本21	2.6 ± 0.9	3.2 ± 0.7	0.0102
17. かかりつけ医機能強化	2.6 ± 1.1	3.6 ± 0.8	0.0042

■ 実習前の「地域」に対する見方や、将来の地域医療へのかかわり方についての意識

1 = まったくそうは思わない 2 = あまりそう思わない 3 = まあまあそう思う 4 = 非常にそう思う

項目	実習前	実習後	p 値
1. 地域医療には夢がある	3.1 ± 0.4	3.5 ± 0.5	0.0021
2. 地域医療はやりがいがある	3.3 ± 0.7	3.7 ± 0.5	0.0035
3. 将来、地域医療を担う自信がある	2.8 ± 0.7	3.2 ± 0.5	0.0165
4. 地域医療に従事した場合に、地域や住民から信頼をされる自信がある。	2.7 ± 0.6	3.2 ± 0.5	0.0035
5. 地域医療に学術的興味がある	2.6 ± 0.6	3.3 ± 0.6	0.0004
6. 地域は暮らしやすそうだ	2.8 ± 0.8	3.2 ± 0.9	0.0035
7. 地域での生活は楽しそうだ	3.3 ± 0.6	3.6 ± 0.6	0.0553
8. 地域では、仕事と生活を融合・両立（ワーク・ライフ・インテグレーション）できそうである	2.8 ± 0.7	3.5 ± 0.8	0.0010
9. 将来、自分の専門分野にかかわらず地域医療に携わりたい	3.1 ± 0.6	3.6 ± 0.5	0.0003
10. 地域住民や関係各所の方々は、この地域で実習することに期待してくれているだろう/くれていた	3.1 ± 0.7	3.7 ± 0.5	0.0020

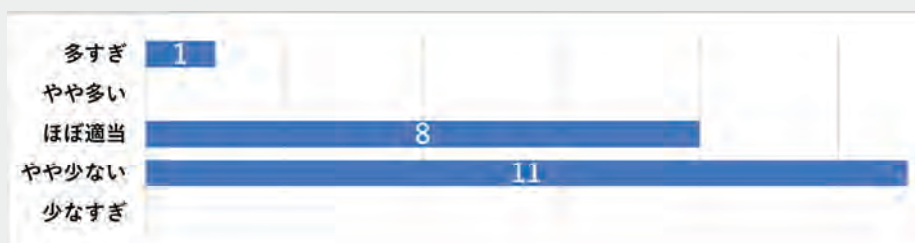
■ 実習後アンケート

■ 夏季実習に対する全般的な評価

内容の価値
についての評価



内容に対する時間量
についての評価



内容の難易度
についての評価



■ 夏季実習全体にわたり「良かった」と思われる点

[自由記載]

- 地域の魅力を知れたこと
- 地域医療の現状について現地で学び、地域の課題と解決策について考えることができた。
- 1泊2日と例年よりは短い時間でしたが、とても内容の濃い実習となりました。湯島には初めて伺いましたが、船に乗って移動したり、島を散策することで、島の地理的特徴や島民の生活の雰囲気、交通の不便さなどを身に染みて感じました。やはり文章で島について知ると、実際に行き知るとは大きく異なり、まさに百聞は一見に如かずでした。また上天草総合病院は、将来働く可能性のある病院なので、見学をしたり、お話を伺ったことで、働いた後のイメージが湧きやすくなりました。今回の実習は3年ぶりの開催となりましたが、やはり地域医療実習はとても勉強になり、同時に他学年や自治医科大学の学生とも交流できるため、将来同じ道を志す学生がたくさんいることを知ったことで、学習への意欲も上がりました。食事もとっても美味しく、食を通して地域の良さも知ることができました。毎年楽しみにしていたので、これから参加できないことがとても残念ですが、最後の学年で参加することができ、とても良い思い出となりました。今回学んだ地域医療の課題をしっかりと頭に入れて、今後地域医療に携わっていきたいと思います。
- 地域を実際に回って特性を学べたこと。グループごとの発表や懇親会で他大学との交流ができたこと。
- 将来働く可能性がある環境を体験し、そこで働く先生の話をも直接聞いたこと。
- 湯島などの離島は個人で行く機会はあまり無いので、そのような場所に実際に行くことができたことはよかったです。
- 湯島を訪問できたこと。自治医科大学の皆さんと交流できたこと。
- 自治医大生と熊大生を混ぜて班員を構成しているのが良いと思いました。班員の数も5人でちょうどよく感じました。懇親会の際も大学毎に席が決められており自治医大の方々と親睦を深めることができました。
- 実際に自分の目で見て耳で聴く「体験・経験」が多かったこと。
- 地域医療に関わる先生方との交流の機会や、上天草での医療の実際を肌で感じるのができる貴重な機会を得られ、とても充実した実習でした。縦と横の繋がりをこれまで以上に大切に、地域に貢献できる医師になれるよう努めていきたいです。
- これまで行ったことのなかった地域に直接赴いて実習に取り組めたこと
- 実際にへき地の雰囲気を体感できたこと、熊大と自治の交流が深まったこと
- 実際に島に渡り、フィールドワークをして住民の人たちがどのような生活をしているのかを感じる

ことができました。

- スケジュールをしっかりと決めてくださり、その通りにスムーズに進むことができたことは良かったと思います。また、久々の開催ということで、学生側もモチベーションが高かったのも良かったと思います。
- 地域の特徴を知ることができた点
- 島の診療所に実際立ち入り、医師の方の生の声を聞いたこと
- 食事/フィールドワーク
- 他の大学の人と関わられた。
- 僻地の診療所を見ることができました。
- 3年ぶりの開催となった夏季研修では将来勤務先となりうる上天草総合病院や御所浦診療所など天草地域の医療施設を実際に見る事ができ、医療の現場を覗く事ができた。

■ 夏季実習全体にわたり「芳しくなかった」と思われる点

[自由記載]

- スライド作成の時間などはもう少しあってもよかった気がする
- Google スライドの共有や編集がタブレット端末ではスムーズに行えず、PowerPoint 形式に直して編集し、統合して Google 形式に戻す必要があった。それが面倒くさかった。また、アルコールに頼らない方法での交流の場を設けてほしかった。アルコールが飲めない学生が蚊帳の外になっていた。
- 懇親会の時間が短かったように思います。懇親会後も皆さん立ち話をされていたので、もう少し時間が長ければ、より多くの先生や学生とゆっくり交流ができたかなと思いました。また時間が足りず完食できなかったことが、申し訳なかったです。
- 特にないです
- 時間が短く、フォトボイスの発表の準備をバスの中でも行わなければならなかったこと
- 実習成果のまとめの時間が少なかったことと、2つのグループがほぼ同じ行程だったため、発表内容が被りかけたことが気がかりでした。
- スライドを時間内に作り終えられず、班員に残業をさせてしまったこと。
- 懇親会前のフォトボイスの準備がややばたつきました。
- 手引等の資料の配布から実習当日までの期間が短く、手引に沿った事前学習に十分な時間を取れなかったこと。
- フィールドワークの時間がやや少なかったように感じた。
- スライドの作成などの時間が限られていたこと
- 発表スライドの準備の時間が少し短く感じた、2日目の発表前に1時間でもとっていただけたらよかった。
- 御所浦グループで、山を登ることについて事前連絡が欲しかった。
- 特にありません。若干ではありますが、フィールドワークの時間をもう少し長く設けていただけるとより良いかなと感じました。
- ホテル帰った後にお風呂の時間がほしかった
- 帰省費用を援助していただけなかったこと

- 烏峠の登山
- 事前学習の内容がアバウトでなか中調べて出ないものも多かった
- 少し時間が少なかった
- 過去には二泊三日で行っていた日程が今回の実施では一泊二日とコンパクトになった分、資料作成までの時間が少ないように感じた。

■ 夏季実習の開催時期、日程、日数について

[自由記載]

- 適当・適当だった（3）
- 熊大の1年生が参加できなかったのは残念であった。
- 熊本大学の1年生がテストで参加できなかったのが残念だった。
- 難しいかと思いますが、全ての学年がカリキュラム上参加できるような日程であると、より多くの学年が参加できると思いました。
- いいと思います。
- 少し日程がきつかったように感じる
- 時期はちょうどよかったです。結構きついスケジュールでしたが、1泊2日であれば体力的にもそこまで無理ではなく、妥当と思います。
- 一泊2日でちょうど良いと思った。
- 時期、日程、日数についてちょうど良いように感じました。
- 長期期間中である8月開催は非常に良いが、どこかの学年の試験期間と重なる日時は避けてほしい。また、2泊3日程度の時間があると、内容がより充実すると考える。
- 良い時期、良い日程、良い日数だったと思う。
- 特にありません
- お盆の直後なのでバタバタしてしまった。
- 西医体という大会と時期が被っていたため、少しずらして頂けると嬉しいです。
- 最適
- あと1日欲しかった
- 時期はちょうどよかったです。日程は少し詰め込んでいるように感じた
- やや少ないと感じたが概ね満足である

■ 夏季地域医療特別実習の手引きとワークブックについて

[自由記載]

- 良かったです／良かった（2）
- フリースペースがもっと欲しかった。
- とても分かりやすいレイアウトで、特にwifiやアンケートなどのQRコードが記載されていたことがとても便利でした。
- 字が見やすくタイムスケジュールもあってよかった

- 見やすく使いやすかったです。QRコードからリンク先へ飛べたり、Googleドライブで共有ができた点がよかったです。
- あまり活用できなかった。
- 見やすかったです。ありがとうございました。
- それぞれの活動や発表準備などのアウトプットの方法について、丁寧な誘導があったため、非常に役に立った。事前学習のページでは参考資料等の記載もあり、目一杯活用できた。
- とても見やすく、研修が楽しみになるようなものでよかったと思う。
- 特にありません
- 実習する上でとても役にたった。
- 当日まで手元に紙の資料がなかったので、事前学習のメモがしづらかった。
- 簡潔に内容がまとめてあり、事前学習事後学習ともに有効に活用することが出来ました。
- わかりやすかった（2）
- 最適
- とても素晴らしい内容だった。
- 特になし
- スケジュールや見学先の施設に関する情報、QRコードなどは見やすいものであった。また研修中必要とされる情報はほぼ網羅されており、十分な量であった。

■ 「事前学習や課題」について（自身の取組状況にかかわらず）

[自由記載]

- 大事だと思います。
- その地域ピンポイントでのデータが少なく、医療圏域での比較を余儀なくされ、下調べと現状にギャップがあった。
- 事前学習に有用なサイトリンクを事前に送って頂いていたので、調べやすかったです。湯島などの小さい地域についてはなかなかデータを見つけることが難しかったです。
- 事前学習で地域の特徴をざっくり捉えるのは大事だと思う
- 事前学習に用いるサイトが示されていてやりやすかったが、調べても出てこない内容等もあり困った
- ネット上ではデータが見つげづらかったりするので、毎年やや難しく感じています。今回は上天草の方からの講義資料に色々なデータが載っていたので例年よりはやりやすかったです。
- インターネットで調べても見つけれなかった内容が多く、苦戦した。
- 参考のURLが記載してあって事前の調べ学習の参考になりました。
- 手引に記載されていたURL先の検索方法に慣れておらず、最初は難渋した。しかし、実習にあたって、どの観点から学習を進めればいいのかという「観点・要点」を確認することができ、良かった。
- 事前学習前は御所浦には私は行ったことがなく、どのような場所なのかも知らない状態だった。しかし、事前学習により、少しだが島について知ることができ、結果的にいい学習につながって行ったと思う。
- 参考となるURLなどの記載が助かりました

- 分量が多かった。
- 調べることが上天草市についてなのかフィールドワークをする場所についてなのか天草医療圏全体についてなのかがわかりづらかった。
- その地域の実情を知るためには、とても大事な内容であったと考えます。事前学習で得た知識を持って現地へ行くことで、その地域の課題がよりはっきりと認識出来ました。
- 課題の解説があると良いと思った。
- 負担が少し大きかった
- 最適
- 少し量が多い
- 予習をして挑んだ。診療所の先生の話に深みが出たと思う。
- 夏季研修先のうち、御所浦診療所を回るコースであったが班員で調べてくれた方がいるおかげもあり、天草地域に関する情報を予め知って研修に臨む事が出来た。

■ 「フィールドワーク」という方法（地区視診、踏査、各所訪問）について [自由記載]

- 内容は事前に知らせておいて欲しかった
- 山登りよりも、施設訪問や病院見学に時間を割いてほしかった。
- 実際に診療所に行き、院長先生にお話を伺ったことで、病院の設備や地域ならではのことを知ることができ、とても勉強になりました。
- よかったです
- 実際のへき地の状況等を見ることが出来、よかった
- 非常に面白いです。ただ歩くだけでもその地域の様子や雰囲気などを何となく感じたりでき、実際に現地の方と話す機会があるのもよいと思います。
- 体を動かして学ぶことができ、初めましての人とも自然に交流できた。
- フィールドワークとても楽しかったです。時間の関係もあるとは思いますが、医師の方のお話も聞いてみたいと思いました。
- 実際に自分の足を動かして、目で見て耳で聴く体験ができたことが非常に有意義だったと感じる。「坂がきつい、道が狭い」など、耳にするだけでは想像で終わってしまう「程度」を実際に感じる事ができ、学びになった。
- 御所浦の山登りは体力的にも日程的にも大変だったと思う。しかし、御所浦診療所についての話などはとてもためになった。住民の方との交流などがあるとなお良いと思った。
- 初めての土地で自分1人では行けなかったであろうところも見る事ができてよかったです
- 大変勉強になった。
- 住民の人たちの生活を肌で感じる事ができてよかった。熱中症対策が必要だと感じた。
- 各所訪問によってその方々が考える地域の在り方や問題点が浮き彫りになり、実際に踏査することでそれを実感することが出来ました。今回の実習は初めての参加でしたが、とても良い流れで進める事が出来たと考えます。
- 印象に残る体験ができた

- とても貴重な体験になった
- 最適
- 現地に行くことで実際の環境を知ることができた。
- 湯島を歩いて渡るのは楽しかった。
- 地元の人を目線で地区の様子を見る事が出来た。生活環境や道路などの状況、診療所までの交通機関など様子などは利便性の面から参考になるものであった

■ 今後取り上げてもらいたい企画、内容、開催地域の希望など

[自由記載]

- 魚がおいしいところ。
- 地域での産科の現状などについて、なかなか実際に見に行く機会が少ないので、そのように特に不足している診療科をピックアップし、それをテーマにした実習も興味深いと思いました。
- 阿蘇、天草で湯島にいきたい
- その地域特有の産業や事業の様子の見学（酒造の見学や林業の見学など）が地域を知るという意味で面白かった記憶があるので、そういう事もできたらよいと思います。
- BBQ などしてみたいです。
- 県南地区に一度しか行ったことがなく、地域卒の赴任先の病院「名」しか知らないため、実際に県南地区の地域医療を見てみたい。また、豪雨からの復興の様子も一緒に学ぶ機会にしたい。
- 今回は離島だったので、次は陸続きで僻地にあたる場所も見学しに行きたいと思った。（将来働く場所がどのような場所なのか知るために）
- 阿蘇／阿蘇地域でぜひ開催してほしいです。／阿蘇に行ってみたい（3）
- 阿蘇地区（阿蘇、小国）も「地域医療」という観点で訪れることは滅多にないため、実習として地域医療を学ぶ機会にしたい。
- 人吉など
- 湯島(猫)リベンジしたいです。
- 地元の人たちの声も参考にしてみたいと感じたため、日頃診療所を利用されている方のアンケートなどがあれば参照したい
- 特になし／なし／特にありません／特にない（7）

■ 現地訪問による実習の補助となるオンラインや ICT（情報コミュニケーション技術）の活用についての工夫や提案があれば、お書きください。[自由記載]

- 良い
- タブレット端末を持参している学生が多かったので、紙媒体での資料配布は不要だったように思える。
- 特にありません
- タブレットはそこまでいらなかった

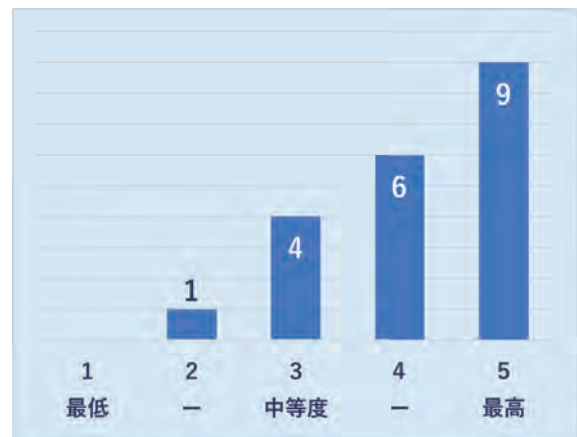
- 今回の Google ドライブでの共有などの取り組みはよかったと思います。
- Google スライドは、ネット環境によっては、更新が遅く、うまくいかない場面があった。その他の面では、共有がしやすくとても良かった。
- Google ドライブでデータのやり取りがやりやすかったです。
- 配布していただいた iPad に、最後まで Wi-Fi が繋がらなかったことが悔やまれる。しかし、ポケット Wi-Fi が用意されていたことで、移動中でも積極的に私物の携帯でインターネットを利用でき、非常に有用だった。来年度以降もよろしければご準備いただきたい。
- 今回のドライブを用いた研修はとても良かったので継続していただけると嬉しいです。
- 通信環境(Wi-Fi など)はもっと改善が必要だと感じた。
- 申し訳ありません、思いつきません。
- なし/特になし/特にありません (10)

■ 夏季実習参加に対する自己評価

夏季実習に積極的に参加した



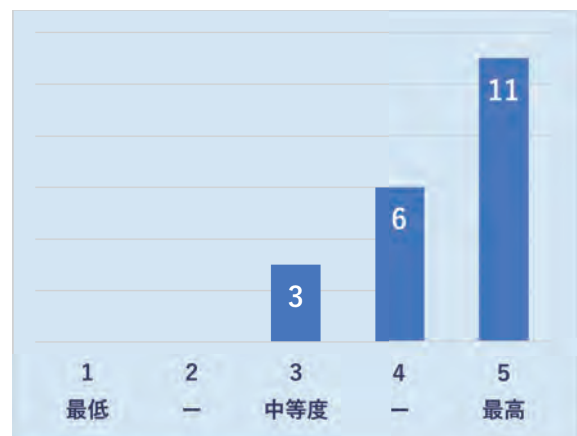
2日間を通して夏季実習を楽しんだ



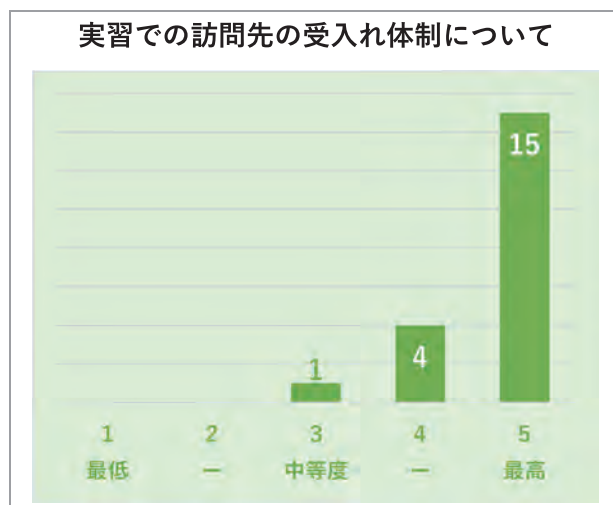
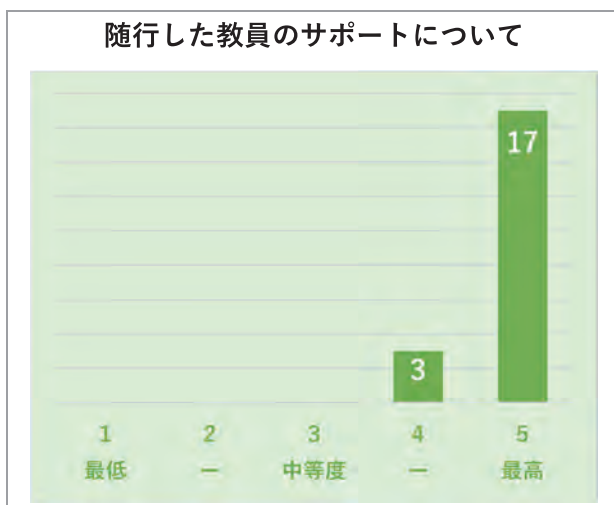
2日間を通して討議や意見交換へ参加した



夏季実習で「地域を知る」ことができた



■ 夏季実習での周囲に対する評価



■ 夏季実習に参加した成果に関する自己評価

【交流や地域とのコミュニケーション】	全くそう 思わない	あまり 思わない	まあまあ そう思う	非常に そう思う
気晴らしやレクリエーション、レジャーとなった	0	0	5	15
同学年、他学年、他大学の医学生との交流の場になった	0	0	2	18
訪問先の関係者、地域住民と交流ができた	1	5	6	8
訪問先から歓迎されたと感じた	0	0	5	15

【天草上島地域や離島を知ることについて】	全くそう 思わない	あまり 思わない	まあまあ そう思う	非常に そう思う
地域の魅力が伝わった	0	0	2	18
地理、地勢、風土が分かった	0	0	4	16
歴史・文化が分かった	0	1	6	13
医療・福祉・介護・保健の実情がわかった	0	0	6	14
暮らしや住まいの実情がわかった	0	0	5	15
実際に住んでみたいと思った	0	6	7	7
また、観光などで訪れたいと思った	0	0	10	10

【医学生として、将来の医師として、医師像など】	全くそう 思わない	あまり 思わない	まあまあ そう思う	非常に そう思う
将来の医師としてのキャリアを考える参考になった	0	0	4	16
将来の勤務するかもしれない地域の医療に携わる動機付けとなった	0	0	4	16
へき地、離島、医師不足地域で働く医師や医療人のロールモデルや好事例を見つけた	0	1	8	11
へき地、離島、医師不足地域で医師として働くのは大変さや苦勞が分かった	0	0	5	15
大学での授業や実習の学修内容のガイドや補強となった	0	2	9	9
訪問地域の地域医療や社会の現状と将来像が分かった	0	1	6	13
地域医療学、社会医学、公衆衛生学などの医学的な知識の向上となった	0	2	7	11
医学生でも訪問先の関係者や住民から期待されていることが分かった	0	0	4	16
医療人として係わることは、地域のエンパワメント（元気づけ）につながるということが分かった	0	0	6	14

夏季実習を振り返って

■ 参加学生の感想

○ 熊本大学 6年

1泊2日と短い時間でしたが、とても内容の濃い実習となりました。湯島には初めて伺いましたが、船に乗って移動したり、島を散策することで、島の地理的特徴や島民の生活の雰囲気、交通の不便などを身に染みて感じました。やはり文章で島について知ると、実際に行ってみるとは大きく異なり、まさに百聞は一見に如かずでした。

地域で求められる医師像としては、地域の良い点を知って好きになること、そこに住む人々を家族のように思い診療に携わること、そしてその地域での生活を住民のように楽しめることが大切だと考えました。地域は市内に比べるとどうしても不便なことが多々あるかと思いますが、その分市内では見つけられない、良い点もたくさんあると思います。そして地域は狭いからこそ人々の繋がりが強く、患者さんとの距離は近いと思います。地域や離島に住んでいる方々は、そこで生まれ育った方が多く、地元を愛している印象があるので、医師がその地域を愛し、生活を楽んでいることは、住民にとっても大きな喜びと信頼や安心に繋がると思います。地域で働く際にはそのような医師を目指し、日々勉強をし、貢献したいと思っています。

○ 熊本大学 6年

二年生の時以来の夏季実習でしたが、今回も有意義なものであったと思いました。湯島は初めての訪問で、離島での診療がどういうものか知ることができたのは大きな学びだったと思います。先生のお話の中で「魚の煮付けを食べる人が多いから週二回までにするように指導する」とありました。また湯島には坂が多く、高齢の方は転倒に注意しなければいけないとの事でした。それぞれの地域で生活やその中の問題点は異なるので、地域で医師として働く際には、自分もその地域住民として生活して、そこに暮らす人の生活を理解する事が重要だと思います。

○ 熊本大学 5年

今回の実習では、4年ぶりの開催で経験が乏しい中、班長という役割をいただき、多少の不安を抱えての参加となりました。しかし、先生方が実習を楽しみ地域の魅力を知ることを一番の目的として手厚くサポートしてくださり、また熊本大学や自治医科大学の班員にも恵まれ、大変充実した楽しい2日間を過ごすことができました。地域について学ぶだけでなく、その地域での楽しい思い出を増やすのも、この実習の意義の一つだと感じました。

○ 熊本大学 5年

今回の夏季地域医療特別実習ではグループリーダーとして参加しましたが、同じグループの人たちに沢山の場面で助けてもらいリーダーとしてはとても頼りなかったと思います。しかしながら助けてもらう中で色々な話ができて、熊大の後輩や自治医科大の方々と仲良くなれたことが今回の実習の中で特に良かったと思う点です。また実習の内容がとても盛り沢山で2日間とは思えない程多くのことを学び、実際の地域を肌で感じることができました。上天草地域の母子保健や障害者（児）施策、介護の現状と不足している医療資源について学んだ講話の中では高い喫煙率と低出生児の数が多いというお話が特に印象に残りました。現在、クリクラで水俣に訪れていますが水俣も上天草とは異なった問題を抱えており、同じ熊本県内といえども、

地域によってこんなにも違うのだということを感じています。その中で将来的に地域医療に従事する上で求められるのは、こういった地域によって異なる問題に柔軟に対応できる能力ではないかと思いました。地域のニーズに応じて対応できる医師を目指して今後の勉強に励んでいきたいと思います。最後にこのような貴重な実習の機会を設けていただき、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

○ 熊本大学 5年

夏季実習で今まで行ったことのない地域に行くことができました。島の雰囲気や離島診療について実際に肌で感じることで、とても有意義な実習になったと感じています。将来勤務する可能性のある地域に実習で行くことができ、地域を知ることができて良かったです。将来地域の期待に応えられる医師になれるよう日頃の勉強に励みたいと思います。

○ 熊本大学 5年

今年は数年ぶりに夏季実習を行うことができ大変嬉しかったです。各訪問先ではたいへん貴重なお話を聞くことができ、上天草の抱える問題や、たくさんの魅力を知ることができました。へき地で働く医師は、総合的な診療能力はもちろんのことその地域の健康意識を高めるような啓発・啓蒙もしていかなければならないと感じました。

○ 自治医科大学 5年

今回は上天草市の医療や健康状態の実情を市役所の方からのお話で知ることが出来、フィールドワーク先の環境を見ることが出来たのは貴重な経験となった。また、自治医大の先輩も働く上天草総合病院も見ることが出来、将来働くイメージがしやすくなった。湯島診療所の空田先生の話聞いてへき地で働く難しさややりがいを学ぶことが出来た。地域の特徴を知り、それを生かした医療を提供できるような人であることが必要で、それを成り立たせるためには基本的な医療知識は最低限持ちつつも常に自分が行いたい診療のために常に勉強し続けなければならないと思った。

○ 自治医科大学 5年

目標の達成度 10割。上天草市の現状、及び御所浦診療所や島内の施設、風土について学習しました。上天草地域は高齢化が急速に進んでおり、高齢者に対する、医師、介護職員等が足りていないということを実感しました。実際に診療所の様子や上天草総合病院の施設を見学させていただきましたが、現場の方々が、限られた人員や設備の中で、患者に最大限の利益があるように活動されているなと感じました。自分も地域社会に貢献できるよう、医療だけでなく、患者の生活環境などにも配慮できる医師になっていきたいと感じました。

○ 自治医科大学 5年

夏季地域医療特別実習を3年ぶりに開催することができ、大変有意義な実習となりました。将来、自分が地域医療に貢献する機会があれば、実際にその地域の病院を訪問し、現地の文化を体験することで、イメージが持てると思います。この実習では、地域の文化を尊重し、その地域を深く理解することの重要性を学びました。地域の文化は、そこで暮らす人々の生活習慣や健康状態と密接に関係しているため、医療において

も文化を考慮することが不可欠だと感じました。今回の貴重な経験を通して、地域に根ざした医療を提供できる医師となることを強く目指したいと思います。医学生のうちから地域医療の意義を理解し、地域貢献に取り組むことが理想的な医療人を目指す第一歩だと考えています。今後もこの思いを忘れずに、医療人として精進していきたいと思っています。

○ 自治医科大学 4年

この度の夏季地域医療特別実習は、講話やフィールドワーク、プレゼンテーションを通して上天草地域ならびに御所浦・湯島について学びを深める大変有意義なものとなりました。特に、御所浦でのフィールドワークでは、実際に民家の間を歩いてみたことで、救急の患者さんが現れた時にどのように対処しなければならないかなどと想像を膨らませることができました。地域で医療を提供していくためには、教科書で学べることだけでなく、その地域をよく知り、地域の人たちと深く関わっていくことが大切なのだと改めて考えました。

○ 自治医科大学 4年

今回の夏季実習の達成度について：今回の夏季実習では湯島を巡りその中で湯島の現状を多く知ることができた。またその島にいる医療従事者の割合やネットなどで調べるだけではでない問題点を知ることができた。この実習で学んだこと：今回の実習では地域の過疎化の進行具合や地域の大病院はどのように患者に対応しているのかを知ることができた。これらを元に地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと：地域医療に従事するということは地域の人とどれだけ仲良くなれるかと同義なので散歩などで気軽に挨拶できるような医者になれたらなと考えた。

○ 熊本大学 3年

上天草地域そのものの地理的な特徴、また特徴的な健康課題や地域医療の実態を、自身の目や耳、足、全身で実感できた。また、その学びを学生間で共有し、議論し合っより深い学びへと繋げたことで、最終的に質の高いアウトプットを生み出した。中でも、御所浦の診療所における「一人ひとりの患者さんとお話する時間を長く持てる」診療が印象的だった。自身が、地域医療における理想像だと考える診療の姿だったからである。坂が多く道が狭いといった地理的な特徴に沿った搬送方法も確立されており、「地域に合った」医療の姿を実際に学べた。また、実習全体を通して、先述した目の前の一人ひとりの患者さんに寄り添う姿勢が、地域医療に求められ、かつ地域医療に携わる医師として在るべき姿だと改めて感じる事ができた。そのような医師になりたいと強く思う。

○ 熊本大学 3年

今回、初めて夏季地域医療特別実習に参加して、事前に立てた目標をある程度達成できたのではないかと考えます。この実習を通して、自分が将来働くであろう地域の良い点や問題点を、実際にその場を歩くことで体感できました。今回できた体験は、地域医療に携わる私自身にとってとても重要な体験だったと思います。フィールドワークを通して、地域において求められる医師というのは、その地域に住む方々への信頼があってこそ求められるものだと考えました。将来同じような地域で働く自治医大の方とも交流することができたので、とても実りある実習となりました。

○ 熊本大学 3年

夏季地域医療特別実習において、上天草地域での医療の現状と課題点について学習し、将来のヴィジョンについて考える機会になったと思う。私は御所浦町のグループに所属したが、御所浦町の診療所では内科や小児科、整形など、総合的に患者さんを診ることが求められる。地域のかかりつけ医としての役割を担うことが求められ、地域の実情やニーズに応じていくことが大切だと思った。

○ 自治医科大学 3年

今回の夏季地域医療特別実習は3年生にして初めての参加であり、湯島や御所浦の地域の特徴について知る良い機会となった。実習では、湯島で医師として働くことの大変さとやりがいについて現役医師の方からの話を通じてよく知ることができ、また、自分たちで島の様子を観察することで印象に残る体験をすることができた。地域において住民に受け入れられる医師となるためには地域を知ることはもちろん好きになる必要があり、また、根気よく住民の方とコミュニケーションを取っていかねばならないと感じた。

○ 自治医科大学 3年

夏季研修を通して天草地域の医療について関心を持ち、積極的に活動する事が出来た。地域医療を支えるためには小さな診療所があることも重要であり、安心して生活することの出来る環境になることから地域医療の重要性を再確認できた。医療を施すのではなく、一住民として協力していくべきだと感じた。そのためには医療に関する知識だけでなくコミュニケーション能力や人間性も必要であると考えた。

○ 自治医科大学 3年

自分は今年3年生で、今回の夏季地域医療特別実習が初めての参加だったが、湯島地域のフィールドワークと湯島診療所の訪問を経て、将来従事する地域医療についてのビジョンが少し明確になった。湯島診療所での先生の話聞いて、島の外の大きな病院に搬送するか微妙なラインの患者さんの診断が難しいということを知った幅広い疾患に1人で対応するということが難しそうという認識だったため、実際を知ることができたいい機会だった。また、地域医療ならではの試みを見ることができた。例えば、湯島診療所の空田先生は高齢の方が島の坂で転ばないように、高血圧を抱える患者さんへの降圧薬の処方少し控えるといった工夫がなされていた。坂の多い湯島診療所ならではの工夫だと感じた。実際、島の坂はかなり急であり、中々しんどかった。湯島地域の地形、風土を考慮し島民に最大限寄り添った地域医療が実現されており、医療人としての姿勢を学ぶことができた。

○ 自治医科大学 2年

今回の実習は、これまで曖昧だった「地域」のイメージが固まる良い機会となった。地域の方々の私達に対する期待を肌で感じ、その期待に応えられるような、地域に寄り添う医師になりたいと思った。また、縦と横の繋がりをこれまで以上に大切に、地域に貢献できる医師となれるよう努めていきたい。

○ 自治医科大学 1年

今回の夏季地域医療特別実習において、私は初めて診療所というものを訪れました。空田先生をはじめとするスタッフの方々の生の声をききました。休みの日で湯島の外に出ると医者が一人もいなくなるのとことでそこを含めて判断していかないといけないことに関心しました。きれいな自然も感じる事が出来てとても充実した実習になりました。まだ1年生ですが今回の実習で学んだことをもとに勉学に励みたいと思います。

○ 自治医科大学 1年

今回の夏季研修で地域の特性や住んでいる方々の暮らし、気候などを実際に自分の足で回ることにより印象に残った。また、医療面での長所・短所を実際に働いている方々から聞いたので、自分で調べるより became。地域において人口が少ない分患者さん1人1人とじっくり向き合えるので、患者さんに信頼してもらえるようにまずは自分が地域を丸ごと愛して医療の知識も日々更新して患者さんの体にも心にも向き合える医師になりたい。

■ 引率・随任教員からのコメント

○ 佐土原 道人 特任助教（熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座）

例年行ってきた夏季地域医療特別実習ですが、新型コロナウイルス感染症パンデミックのために、2019年を最後に開催できない状態が続きました。昨年度も第7波のために直前に断念しました。この度は、3年越しの開催となります。この数年のブランクで、全くこの実習を経験していない学年もでてきて、企画側、参加者共に新たな再スタートとなりました。2泊から1泊で実施可能な内容に絞り、コロナ禍で普及したICTと情報端末を活用し、短時間で効率的な学習と資料作成、成果発表ができたと思います。学生の皆様のこのICT活用するスキルには改めて感心させられました。冬季にはカリキュラムの都合で参加できなかった学生の実習を計画しております。次年度は、さらに充実した内容になるように計画したいと思います。

この場を借りて、ご参加の学生の皆様、訪問先でご指導頂いた関係各所の皆様方に感謝申し上げます。

○ 高柳 宏史 特任助教（熊本大学病院 地域医療支援センター）

新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行し、以前と同じようにとはまだまだいきませんが、4年ぶりの夏季実習です。この実習は、熊本の各地域で勤務する学生が地域を知ること、そして、熊本大学と自治医科大学との大学間交流、私はこの大きく2つの意義がこの実習にはあると思っています。私にとっては、近年、診療支援におもむいている地域での実習でしたので、また違った意味で刺激になりました。

御所浦では、診療所周囲の住宅地の路地を歩くことで、離島特有の雰囲気を感じてもらえたのではないかなと思います。カラス峠の頂上までの登山は、何年も診療支援で御所浦を訪れていたのにも関わらず私も初めての経験でした。まさかマイクロバスが途中までしかいけず、結構な距離を暑い中、登らないといけなかったのは誤算でした。かなりきつかったですね。皆さん、お疲れさまでした。

○ 北村 泰斗 特任助教（熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座）

新型コロナ感染症の影響で、久しぶりに再開となった夏季地域医療特別実習。私自身は初めての参加でした。計画段階からただならぬ熱意を感じ、これまでの実習内容からも、寄附講座においてとても大切にされているイベントであることを肌で感じました。再開とはいえ本実習においてもまだまだコロナの影響は残り、施設や住民の方との触れ合いの機会が得られなかったのは残念でした。とはいえ、熊本大学と自治医科大学の学生が混じり合い、上天草の地域医療を行政、離島診療所、中核病院の視点で感じ取り、炎天下の中、スタッフとともに汗をかきながら散策をしたりといった交流を通して、参加された学生の皆様には、これまでに以上に熊本の地域医療になじみをもっていただけたのではないかとかと思っています。

実習にご協力いただきました行政、診療所、病院の皆様には心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

○ 早川 香菜美 先生（熊本大学病院 総合診療科 医員）

夏季地域医療特別実習は毎年夏休み期間中に熊本大学の学生と自治医科大学の学生が、互いに交流を深めながら熊本の地域の実情について学ぶ良い機会となっていると思います。私自身も学生の時は毎年参加させていただいておりましたが、この実習を行うにあたり、こんなに早くからたくさんの方々が関わり準備をしてくれていたからこそ有意義な時間を過ごすことができていたんだなと感謝の気持ちでいっぱいです。関係各所の皆様には改めてお礼申し上げます。学生の皆さんも事前学習から当日の活動、発表まで大変だったと思いますが、充実した実習になったのではないのでしょうか。この経験を活かし、これからの熊本の地域医療を一緒に盛り上げていけたらうれしく思います。

○ 小山 耕太 先生（熊本県へき地医療支援機構 専任担当官）

今回、医療政策課として参加し、地域医療を担う自治医大生と地域枠学生との親睦を深められた点、彼等が将来赴任する可能性のある現地に赴き、課題を抽出することで自身が期待される機能を認識する機会を得られた点で大変有意義でした。

また、これから熊本県として義務内医師に対する「具体的な」診療指導・教育に対する支援システム作りをするにあたって、実際の学生方のニーズを聴取することができたことも大きな収穫となり、支援する側としてモチベーションアップにも大きく寄与する実習となりました。

今後、引き続き多くの地域で定期開催されることを強く望みます。

「ゆっくりだけど、確実に前進」です。

○ 平賀 円 先生（阿蘇医療センター 内科）

卒業して以来の約8年ぶりの地域医療実習の参加でした。また、教員側として初めて参加する実習は新鮮でした。

教員側としての私のミッションは、参加学生のアイスブレイクでした。熊大生と自治医大生をあわせて20名は、行きのバスの中で、活動するグループ毎に分かれ、グループ名をつけるというワークを行いました。結果は意外と盛況であり、学生らが仲良くなるきっかけになったみたいで良かったです。

上天草保健センターでは、保健師の講話を聞き、上天草市の現状や問題点などを学ぶことができました。グループワークでは御所浦島に行きました。かつて湯島には行ったことがあったのですが、御所浦に上陸するのは初めてでした。新築の御所浦診療所の中も見学させていただきました。緊急の場合の搬送手段の話は興味深かったです。少子高齢化がすすみ、今後はさらに人口減少が進むことが予想されますが、そのような社会の流れのなかで、自分自身がどのような役割で地域医療に携わっていくのかということを考えながら島を歩きました。鳥峠からの眺めは綺麗でした。

学生の時とはまたひと味違う実習であり、有意義な経験をさせていただきました。同行させていただき誠にありがとうございました。

○ 松岡 隼平 先生（阿蘇医療センター 内科）

令和5年度の夏季地域医療特別実習に参加させていただきました、医師6年目の松岡隼平です。今回の実習の振り返りを兼ねてご報告致します。

今回は上天草市の湯島と御所浦で、いわゆる離島での実習でした。私は2日目からの参加でしたので、学生の発表でのみの実習状況の把握にはなりますが、各班とも各地域独自の医療の形を実際に見て、大学や市中病院とは全く異なる地域医療の実態を肌で感じられている様に思えました。私自身も、熊本、荒尾、玉名、上天草、阿蘇、と地域医療に従事し、限られた資源での医療実践、医療の不確実性への葛藤、ACPなど様々な問題に直面してきましたが、その問題解決に直接的にアプローチがかけられるというのが、地域医療・総合診療科の面白みだと思っています。私は日本の医療の今後は地域創生から始まると考えていますので、是非、学生の皆さんにももっと総合診療科に興味を持って頂けると嬉しいです。

○ 下地 徹 先生（天草市立河浦病院 総合診療科）

今回の実習に外部講師として初めて参加するに当たって、現在の指導医から私自身にも課題を設けられていました。「地域をみるとはなにか、地域志向性とは何か」を、実習参加後に自分の言葉で説明するというものでした。実習参加前にはうまく言葉にならず、上天草についてまずは学生と同じ目線に立って勉強してみようと考えました。実際参加してみると、学生では気づけないことがたくさんあると感じ、そこを補うために医師が講師として参加する必要があるのだと当たり前のことに気づいたわけですが、同時に上天草にどっぷりつかり、上天草を理解し好きになっていく自分にも気づきました。自分の言葉ではまだまだ冗長な表現しかできませんでしたが、医療を含めた町作り・仕組み作りが大事なのではないかと気づきを得ました。小国公立病院の片岡先生が学生たちに「地域を愛してください」とお話を聞いたのを聞いて、「ああ、地域をみるということをうまくまとめられてる」と感じました。またこのような実習があれば是非参加させていただき、学生たちの学びを一步進め、自分も学ばせていただけると有難いと感じました。

もくじ

はじめに	1
------------	---

地域医療特別実習について	3
--------------------	---

夏季地域医療特別実習（天草上島地域）

夏季地域医療特別実習の概要	6
グループワーク	9
夏季実習の様子	19
夏季実習参加学生アンケート結果	23
夏季実習を振り返って	35

冬季地域医療特別実習（阿蘇地域）

冬季地域医療特別実習の概要	44
冬季実習の様子	48
冬季実習参加学生アンケート結果	53
冬季実習を振り返って	60

おわりに	63
------------	----

冬季地域医療特別実習の概要

■ 冬季地域医療特別実習について

例年、地域医療特別実習は夏季のみ行っておりましたが、今年度は、大学のカリキュラム等で夏季実習に参加できなかった学生を対象に、12月25日、26日に1泊2日の日程で阿蘇地域にて冬季地域医療特別実習（以下「冬季実習」）を行いました。

この度の冬季実習は、阿蘇市、産山村、小国町、南阿蘇村において、関係自治体をはじめ関係機関の多くの皆さまのご理解とご協力のもと、3つの診療所を含む6つの医療機関、2つの高齢者施設を訪問しての充実した実習となりました。実習の詳細については、以下の頁をご参照ください。

■ 開催日程及び実習地域

【実習日程】2023年12月25日（月）～12月26日（火）

【実習地域】阿蘇地域（阿蘇市、小国町、産山村、南阿蘇村）



■ 参加学生

- 熊本県医師修学資金貸与学生・・・12名

■ 実習スケジュール

【1日目】12月25日（月）

8:00~8:15	集合（熊本大学病院）
8:30~9:50	移動（貸切バス：熊本大学病院 → 阿蘇医療センター）
10:00~10:45	講話 阿蘇市役所 市民部 ほけん課、健康増進課 （会場：阿蘇医療センター 講堂）
10:50~11:30	見学・グループワーク（阿蘇医療センター）
11:35~11:40	移動 （貸切バス：阿蘇医療センター → 特別養護老人ホーム阿蘇みやま荘）
11:45~12:15	見学（特別養護老人ホーム阿蘇みやま荘）
12:20~12:25	移動（貸切バス：阿蘇みやま荘→昼食会場）
12:45~13:35	ランチミーティング（道の駅 波野 神楽苑）
13:45~13:55	移動（貸切バス：昼食会場 → 波野診療所）
14:00~14:30	見学・意見交換（波野診療所）
14:35~14:55	移動（貸切バス：波野診療所 → 産山診療所）
15:00~15:30	見学・意見交換（産山診療所）
15:35~16:25	移動（貸切バス：産山診療所 → 小国公立病院）
16:30~17:20	講話（小国公立病院）
17:25~17:45	移動（貸切バス：小国公立病院 → 宿泊施設）
17:50~18:35	準備・休憩（旅館 白水荘）
18:40~18:55	移動（貸切バス：宿泊施設 → 懇談会会場）
19:00~20:30	懇談会・意見交換会（会場：食事処 三軒家）
20:30~20:50	移動（ジャンボタクシー：懇談会会場 → 宿泊施設）
20:55~	休憩・就寝（旅館 白水荘）

【2日目】12月26日（火）

7:00~8:00	朝食
8:25	集合
8:30~8:50	移動（貸切バス：宿泊施設 → 小国公立病院）
9:00~9:30	見学（小国公立病院）
9:30~10:00	見学（おぐに老人保健施設）
10:05~10:15	移動（貸切バス：おぐに老人保健施設 → 北里柴三郎記念館）
10:20~11:15	見学（北里柴三郎記念館）
11:20~11:25	移動（貸切バス：北里柴三郎記念館 → サテライト診療所）
11:30~12:00	見学（おぐにサテライト診療所）
12:05~12:15	移動（貸切バス：サテライト診療所 → 昼食会場）
12:20~13:10	ランチミーティング（会場：食事処 玄海）
13:15~13:55	移動（貸切バス：昼食会場 → 道の駅阿蘇）
14:00~14:30	休憩（道の駅阿蘇）
14:35~14:55	移動（貸切バス：道の駅阿蘇 → 阿蘇立野病院）
15:00~15:40	講話（阿蘇立野病院）
15:50~16:40	移動（貸切バス：阿蘇立野病院 → 熊本大学病院）
16:45	解散

参加者一覧

・参加学生	熊本県医師修学資金貸与学生	熊本大学医学部生	4年 西山 望、平木 亨弥、山口 真子 3年 松岡 りほ 1年 田中 遥子、山口 竜蔵、末永 義博、下川 真奈、西田 智哉、西山 泰生、荒川 彩乃
		琉球大学医学部生	4年 緒方 紫音

・引率・随員スタッフ	熊本大学病院	地域医療支援センター	センター長 松井 邦彦 コーディネーター 無田 英昭、川添 光芳
		地域医療・総合診療実践学寄附講座	特任助教 佐土原 道人
	熊本県	へき地医療支援機構	専任担当官 小山 耕太

・実習協力機関等（懇談会参加者含む）	小国公立病院 おぐにサテライト診療所		病院事業管理者 片岡 恵一郎 病院長 堀江 英親 医師 井上 大輝 事務長 玉飼 博之
	阿蘇医療センター		病院長 甲斐 豊 医師 平賀 円、松岡 隼平
	波野診療所		医師 畑 裕之（高野病院）
	産山村診療所		所長 井 清司
	阿蘇立野病院		理事長 上村 晋一
	特別養護老人ホーム阿蘇みやま荘		施設長 山口 祐一郎
	おぐに老人保健施設		施設長 堀江 英親 事務長 玉飼 博之
	北里柴三郎記念館		館長 北里 英郎

協力施設及び ご協力いただいた皆様

阿蘇市（ほけん課、健康増進課）／産山村／小国町／白水荘／お食事処 三軒家／道の駅 波野神楽苑／道の駅 阿蘇／お食事処 玄海／菊南プラザバス／丸善タクシー／近畿日本ツーリスト

冬季実習の様子

12月25日（月）

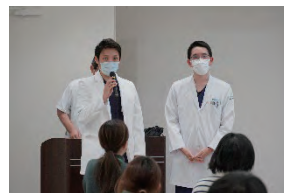
■ 講 話

阿蘇市 健康増進課及びほけん課より、阿蘇市における保健事業や介護保険事業、高齢者医療等の状況について詳しくご説明いただきました。講話後の質疑応答では、多くの質問が出され活発な意見が交わされました。



■ 阿蘇医療センター見学

阿蘇医療センター 甲斐院長より、阿蘇地域における地域医療の現状や課題、病院の概要等についてご説明いただき、同センター内科 平賀先生には実践的なグループワークを行っていただきました。その後、甲斐院長によるご案内のもと施設設備等の見学を行いました。



■ 特別養護老人ホーム阿蘇みやま荘見学

特別養護老人ホーム阿蘇みやま荘 山口施設長より施設の概要について詳細にご説明していただきました。



■ ランチミーティング

道の駅 波野 神楽苑にてランチミーティングを行い、今後のスケジュール等を確認しました。阿蘇の食材が使用された料理をいただきました。



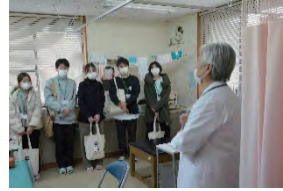
■ 波野診療所 見学

波野診療所 畑先生より、地理的条件の厳しいへき地における医療の特性や実情等について丁寧にご説明いただき、診療所内をご案内いただきました。



■ 産山村診療所 見学

産山村診療所 井所長より、ご自身の経験を交えて、地域医療の持つ意義や地域医療の楽しさ、地域医療を担う医師の使命感なども含め、地域医療の実情についてお話いただきました。

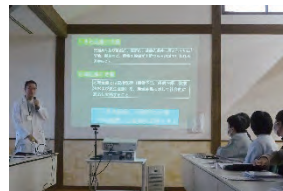


■ 講 話

「小国らしい地域医療をデザインする」～柴三郎先生の生誕の地より～

小国公立病院 病院事業管理者 片岡 恵一郎 先生

小国公立病院 片岡病院事業管理者より、小国郷（小国町、南小国町）の特性を生かしながら、医療、福祉、介護が連携し、一体化となって地域の皆様の暮らしを支えていく壮大な地域づくりについて熱意のこもったお話をいただきました。



■ 懇談会・意見交換会

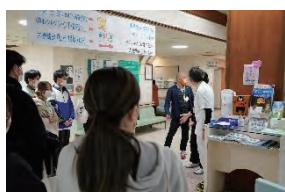
今回の実習にご協力いただいた阿蘇医療センター、小国公立病院からも多数の先生方にご出席いただきました。これから地域医療を目指す学生たちに、地域医療の楽しさや厳しさ、面白さなど、ご自身の経験も踏まえ地域医療の最前線で活躍されている先生ならではのいろいろなお話をいただき、非常に有意義な時間となりました。



12月26日（火）

■ 小国公立病院 見学

小国公立病院 玉飼事務局長より、小国公立病院の概要についてご説明いただいた後、院内の各所を巡り、機材や設備なども詳しくご案内いただきました。



■ おぐに老人保健施設 見学

おぐに老人保健施設 宇野施設係長より、老人保健施設の概要についてご説明いただいた後、入所者の方が利用される部屋や設備などをご案内いただきました。



■ 北里柴三郎記念館 見学

熊本大学医学部の偉大なる先輩であり、「近代日本医学の父」とも呼ばれている北里柴三郎先生のご功績をたたえて建てられた記念館を訪ねました。北里 英郎 館長（北里 柴三郎先生のひ孫になられます。）やガイドの方にご説明いただきながら、生家や北里文庫、資料館などを見学しました。



■ おぐにサテライト診療所 見学

片岡病院事業管理者より、小国地区で進めているリモート診療について、パソコンやタブレットなど、実際の機材も使いながら診療の仕組みや実情を詳しくご案内いただきました。玉飼事務長から、小国サテライト診療所が立地する地域に集約された施設との連携などについてもご説明いただきました。



■ 講 話

「熊本地震時における地域医療対応について」

阿蘇立野病院 理事長 上村 晋一 先生

阿蘇立野病院 上村理事長より、平成 28 年熊本地震の際のご自身の経験を基に、地震による閉院から苦難を乗り越え病院再開に至るまでの取組みの状況等を、震災直後、急性期、亜急性期等の各ステージに分けて、その当時の思いも交えながらお話いただきました。



冬季実習 参加学生アンケート結果

■ アンケートの目的

- 冬季地域医療特別実習の教育的効果と「地域を知る」ことができたのかの検証
- アンケートに回答することによる参加者の自己省察促進
- 今後の運営や企画の改善のため

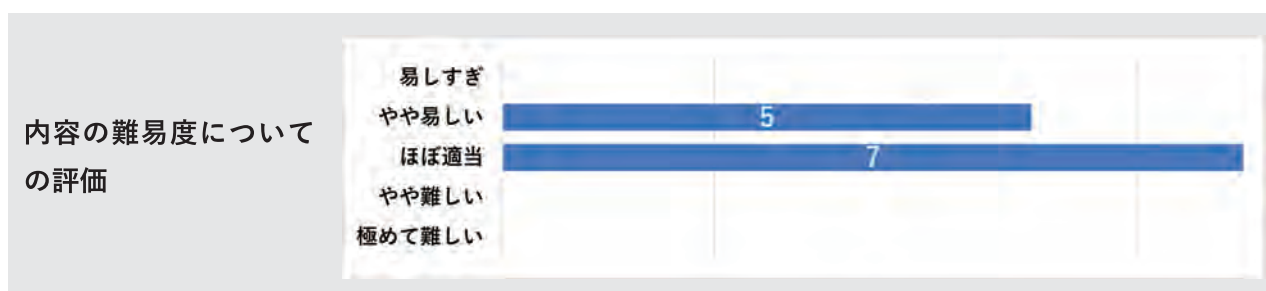
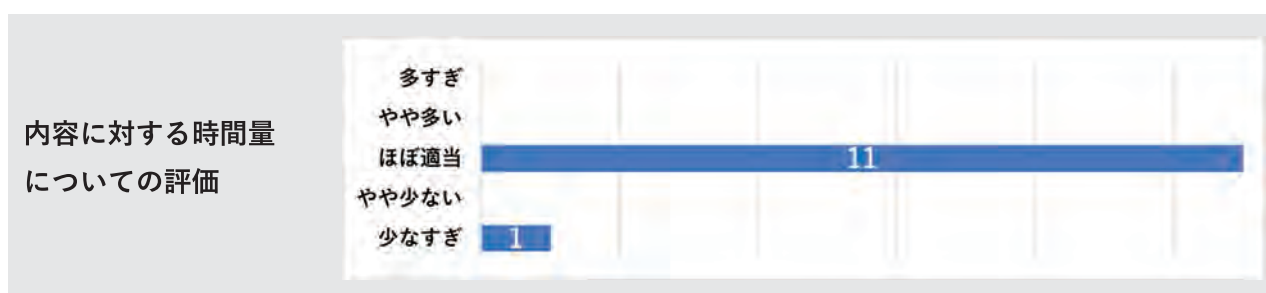
■ アンケート回答者の構成

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
熊本大学	7	0	1	3	0	0	11
琉球大学	0	0	0	1	0	0	1
合計	7	0	1	4	0	0	12

男性 6 名、女性 6 名

■ 実習後アンケート

■ 冬季実習に対する全般的な評価



■ 冬季実習全体にわたり「良かった」と思われる点

[自由記載]

- 地域を担っていらっしゃるのに先生方は皆さんお忙しいのに、比較的低学年の多い今回の実習にも時間を割いてくださったので感激しました。施設の説明の際も、懇親会の際も丁寧に教えて頂けたのでイメージが湧きやすく来て良かったなと思いました。
- 説明して頂いた先生方と懇親会で交流ができてよかった。
- かなり身近になって説明していただいたこと
- 複数の病院・施設でお話を聞き、気になることを直接質問することができた。
- 少数の医療施設で学ぶのではなく、多数の施設やあらゆる種類の施設の見学や、職員さんの話を実際に聞くことができて良かったです。また平賀先生のグループワークでは簡単ではありましたが、地域医療に従事する医師がどんなことを考えているのかなどを体験出来て楽しかったです。
- 多くの医療機関を周って、先生方や役所の方から現場のお話を伺えたこと。小国公立病院でメディカルモール等の説明を聞いた後、実際にその現場に行って施設やシステムを見学できたこと。
- 夏季の早期臨床実習では学べなかった、地域医療の実態や気候、地形などを学ぶことができた。
- 資料を読むよりもはるかに有意義な実習であった。
- 阿蘇、小国のたくさんの施設を回ることができた。実際に働く人の話を聞けたところも良かった。
- 4年生にして初の地域医療実習に参加させていただいて、他の学年との仲を深められたことがとても良かったと思います。また、長く暮らしている熊本にも知らないことが沢山あると気づくことが出来、阿蘇小国の人の良さや美味しい食べ物、景色など身をもって知れたのも良かったです。

■ 冬季実習全体にわたり「芳しくなかった」と思われる点

[自由記載]

- 地域での包括的サポート体制には多職種の連携が必要不可欠だと学んだので、もっと看護師さんや薬剤部の方々の意見や要望寄りのお話しも伺いたかったです。老人ホームの介護長さんのお話（愚痴？）が知らないことばかりで面白かったので、施設の細かい説明に加えてもっと医者には直接言いづらいけど学生には言えるようなものが引き出せれば良かったなと思いました。
- 時間に余裕が無かったのもあると思うが、地域医療に関するディスカッションの場があると良いと思った。先生方の話を聞くことももちろん勉強になるが、自分で考えることも必要だと思うし、下級生は全体の間では質問がしにくいと思うのでグループに分かれて意見交換をできるとより良くなりそう。
- 柴三郎記念館を、もう少し時間をかけてじっくり見たかったと感じました。
- ディスカッションが少なかった
- 特にないが、宿舎にシャワーがあったらより良くなると思った。
- アメニティが実際に用意されてたりするなど、宿泊関係の連絡がもう少し正確にあって欲しかったです。
- 旅館のアメニティは有料だと聞いていたが、用意されていたこと。
- 特になし／なし（3）

■ 冬季実習の開催時期、日程、日数について

[自由記載]

- 阿蘇の実習を冬に実施したのは、阿蘇特有の気候を知ることができ、フィールドワークが一層活きたので良かったです。日程も1泊2日とは思えないほど多くの場所を訪ねることができ充実していました。日数も丁度良かったです。
- 年末開催は沖縄にいる身としてはとても助かりました。
- 授業が終わってすぐの時期だったので、帰省の日程と被ったりせずにちょうど良かったです。日数も1泊でちょうど良いと思いました。
- 適当な日数であった。
- ちょうどよい／ちょうど良いです (2)
- 夏がいい／夏に行ってほしい／夏季実習に参加したいと思った (3)
- 特になし (2)

■ 冬季地域医療特別実習の手引きとワークブックについて

[自由記載]

- 本格的で驚きました。くまもントートがもらえて嬉しかったです。
- メモ欄も用意されていてよかった
- とても見やすく活用しやすかったです。
- わかりやすくまとめられていた／わかりやすかったです (2)
- まとめられていて扱いやすかった。
- 事前に紙でもらえていたら、事前学習と繋げて書き込みができたかと思う。
- 活動計画メモが枠で区切られていたので取り組みやすかった。
- 活動で学んだことを書くスペースがもう少し広めに欲しかった。
- PDFでも配布されるのはとてもありがたかったです。各施設のメモをとる欄が少し小さくてまとめるのが大変だったので、大きくして欲しいです。
- 紙媒体は当日に配布されたため、事前学習はデータ、当日のメモは紙面に分けて記すことになりました。全員が一斉に集まる機会がなかったため仕方がないですが、良ければ熊大生は地域医療支援センターに直接取りに伺うという形でもいいので数週間前には紙媒体で欲しいです。
- 特になし

■ 「事前学習や課題」について (自身の取組状況にかかわらず)

[自由記載]

- 事前学習をしたことで、阿蘇地域の医療や社会の現状を知れ、ある程度の問題意識を持って臨めたのでよかった。
- 実習の理解度が上がった。
- 学びを深めることができました
- 事前に調べることで実際にお話を伺った時に内容が入ってきやすかった。
- 参考となる有用性の高いページのURLをまとめて記載して頂いた点が非常に助かりました。

事前学習の取り組み方が人によって異なりそうだったので、課題の分担・実習に際した方向性を揃えるという意味でも皆で集まって取り組む時間が設けられるといいと思いました。

- いつもの医学文献とは全く違うソースで調べないといけなかったのが苦戦しました。最終的には提示されていた参考ホームページに頼ってしまった。
- ホームページを検索し調べ学習を行った。今回は施設数が多かったため、全て詳しく調べるのは困難であった。
- 授業でまだ習ったことがないものや聞いたこともないものを調べることが多かったため、調べるのにかなり苦労しました。また、量も少し多く時間がかかったため、もう少し早く資料を出して欲しかったです。
- 項目が細すぎて取り組みにくく感じた
- 資料のリンクのページがあり、検索しやすかった。
- 現地での時間は限られているので、そこを有効に活用するという意味でも役に立った
- 訪問する所を Google マップで事前に見ておけば、更に地理的なことが理解できたと思いました。

■ 「フィールドワーク」という方法（地区視診、踏査、各所訪問）について [自由記載]

- フィールドワークできました
- 知らない地区を知るには良い方法だと思う。
- 実際に行ってみないとイメージを掴めないところがあったり、インパクトがあったりしたので、とてもためになった。
- 資料だけでは分かりにくい雰囲気などを感じることが出来て良かったと思う。
- 現地の雰囲気を感ぜて良い
- 地域医療を実感でき、ためになった
- 地域医療の学習こそフィールドワークが必要不可欠だと考えているため、風土や住民の様子を感じられ最適な方法だと思いました。(個人的な反省)訪問する場所をワークブックの地図上にまとめて掲示してありましたが、せっかくバスに乗って移動しているのにどのルートを通っているのかわかりづらかったため、予め訪問順に番号で示したり、ルートを太い線で示すとより理解が深まると思いました。
- 普段見られないような地形を見ることができていいと思った。
- 今回バスでの移動が主だったので、地域を自分の足で歩いてフィールドワークしてみるのも良い経験になると思いました。
- 阿蘇に行くことはすぐにできますが、地形やその土地の特徴などを考えることはなかったのでもいい体験が出来ました。訪問も楽しかったのですが、施設によっては全く見学出来なかったのが少し残念でした。
- 沖縄に住みすぎて比較対象が沖縄になっていたため、もっと市内の様子と比べるべきだったなと思いました。
- 講話もとても役に立ったがディスカッションを増やすともっといいと思う

■ 今後取り上げてもらいたい企画、内容、開催地域の希望など [自由記載]

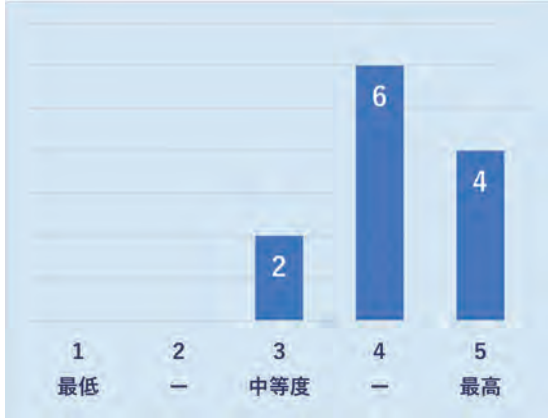
- 阿蘇の今後の介護の計画などを知りたいです。オグニーランドの構想をもっと詳しく知りたいです。また、阿蘇の地域と熊本市がどのような連携を取っているのか、それが上手くいくための工夫なども知りたいです。
- 県南地域を訪問してみたいと思います。
- 人吉球磨、下天草
- 人吉・八代地域での実習も参加してみたい
- 球磨地方をお願いします！
- 離島
- 天草周辺
- 上益城圏域で開催してほしいです。(10万人対医師数が県内の医療圏で最も少ないため)
- 特になし／特にありません。特にないです。(4)

■ 現地訪問による実習の補助となるオンラインや ICT（情報コミュニケーション技術）の活用についての工夫や提案があれば、お書きください。[自由記載]

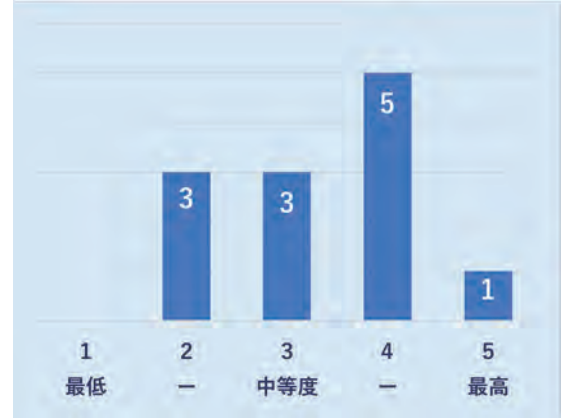
- 介護施設などはコロナの関係で、利用者の方と直接交流させて頂くことは難しいと思うのですが、そこを ICT を活用して交流できたら良いなと思いました。
- スライドをあらかじめ貰っておくべき
- 講話のスライドは事前に入手しておきたい
- 何枚かの資料はプリントだけで PDF 化されてないのもあったので、全部の資料が PDF 化されてたらタブレット 1 台にまとめられるので便利だと思います。
- 対面で診察するわけではないので、診察と度合いを制限するのはとてもいい工夫だと思った。
- 質問の意図とは少し異なるかもしれませんが、今回おぐにサテライト診療所でオンライン診療の様子を拝見したので、次は公民館等で診療を受ける患者さん側の動きを見学したいです。
- 特になし／特にはない／ないです (5)

■ 冬季実習参加に対する自己評価

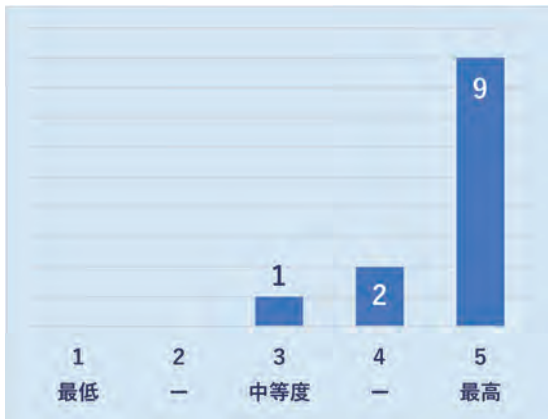
冬季実習に積極的に参加した



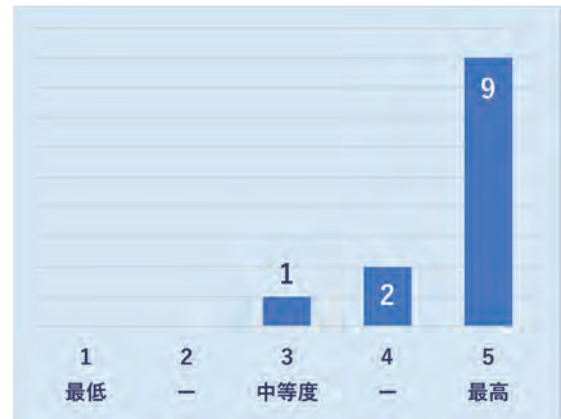
2日間を通して冬季実習を楽しんだ



2日間を通して討議や意見交換へ参加した



冬季実習で「地域を知る」ことができた



■ 冬季実習に参加した成果に対する自己評価

【交流や地域とのコミュニケーション】	全くそう 思わない	あまり 思わない	まあまあ そう思う	非常に そう思う
気晴らしやレクリエーション、レジャーとなった	0	0	4	8
同学年、他学年、他大学の医学生との交流の場になった	0	0	4	8
訪問先の関係者、地域住民と交流ができた	0	0	2	12
訪問先から歓迎されたと感じた	0	0	3	9

【阿蘇地域を知ることについて】	全くそう 思わない	あまり 思わない	まあまあ そう思う	非常に そう思う
地域の魅力が伝わった	0	0	1	11
地理、地勢、風土が分かった	0	0	6	6
歴史・文化が分かった	0	1	7	4
医療・福祉・介護・保健の実情がわかった	0	0	3	9
暮らしや住まいの実情がわかった	0	1	7	4
実際に住んでみたいと思った	0	0	9	3
また、観光などで訪れたいと思った	0	0	2	10

【医学生として、将来の医師として、医師像など】	全くそう 思わない	あまり 思わない	まあまあ そう思う	非常に そう思う
将来の医師としてのキャリアを考える参考になった	0	0	2	10
将来の勤務するかもしれない地域の医療に携わる動機付けとなった	0	0	2	10
へき地、離島、医師不足地域で働く医師や医療人のロールモデルや好事例を見つけた	0	1	3	8
へき地、離島、医師不足地域で医師として働くのは大変さや苦勞が分かった	0	0	6	6
大学での正規の授業、実習の学修内容のガイドや補強となった	0	1	2	8
訪問地域の地域医療や社会の現状と将来像が分かった	0	0	3	9
地域医療学、社会医学、公衆衛生学などの医学的な知識の向上となった	0	0	5	7
医学生でも訪問先の関係者や住民から期待されていることが分かった	0	0	4	8
医療人として係わることは、地域のエンパワメント（元気づけ）につながるということが分かった	0	0	4	8

冬季実習を振り返って

■ 参加学生の感想

○ 熊本大学 4年

地域を知るという目標について達成できたように思います。各施設を回ることで、地域ごとの比較ができ、実情を知ることでもでき、とても有意義な実習でした。また、1日目夜の懇親会は地域卒の先輩方や病院の先生方と交流する機会でも、楽しくお話することができました。ここでも、地域医療について教えていただき、私たちの悩みに対して具体的なアドバイスもいただきました。地域では、1つの分野に特化するよりも幅広い疾患をみることにあります。全身を幅広くみれる医師になりたいと強く思いました。

○ 熊本大学 4年

様々な病院や診療所に出向き、地域医療の実態について知ることができた。高齢化や医療資源の不足など、知識として知っていたことを目の当たりにし実体験として結びついたことが今回の実習で1番よかったことだと思う。また、小国の医療ネットワークの話聞いて、能動的に考えて実行することの大切さ、凄さを感じた。学生の勉強だと既存の知識をインプットすることばかりになってくるが、課題を自分で探し、解決のために思考、実行出来る力を培っていかねばいけないと感じた。地域で働く医療人としてこの地域をどう活性化させるかという考えが求められていると考えた。

○ 熊本大学 4年

冬季地域医療実習に4年生にして初めて参加させて頂いて、観光で訪れるだけでは知ることのできない、地域の医療、福祉の実情を知ることが出来ました。設備や人員に制限がある中で、地域の病院としての役割を果たすという事がどういう事であるかを学びました。地域では医師は医療に関わるだけでなく、町づくりにも関わっておられて、電子機器の取り扱いや病院経営についてなど、医学的なことを知っているだけでは足りないと感じました。今回の実習に参加して、広く診れる医師になりたいと強く感じました。

○ 琉球大学 4年

まずは今回の冬季実習を綿密にスケジューリングして下さった先生方に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そのくらい濃密な分刻みのプランで事前の資料を見た時にびっくりしました。たくさん詰め込んで下さったおかげで達成感のある実習になったと思います。ただ、公衆衛生も習っていない状態の一年生たちにはなかなか難しい内容も多かったのではないかと感じました。現に施設ごとのお話の後の質問もあまり出来ていないように見えました。私も日頃の交流がないのでなかなか上級生らしいサポートが出来なかったのが反省点です。夏季合宿ではもっとチームごとの縦割りの繋がりがあるように思うので、課題のない冬季合宿でしたがフィールドワークやフォトボイス以外の座学的な講座でもっと下の学年の子と連携が取ればいいなと思いました。今回の実習では、地域での包括的サポート体制には多職種の連携が必要不可欠だと肌を通して学ぶことができました。地域を担っていらっしゃる先生方は皆さんお忙しいのに年末のお忙しい中時間を割いて下さったので感激しました。施設の説明の際も、懇親会の際も丁寧に教えて頂けたのでイメージが湧きやすくて来て良かったなと思いました。私も地域に根ざしているフットワークの軽い挑戦し続ける医師になりたいと思いました。

○ 熊本大学 3年

病院や介護施設など、その施設が地域において求められる役割を考えながら話を聞くことが出来た。実際に地方の病院の先生に詳しい話を聞く機会はこれまであまり無かったので、とても貴重な経験になったと思う。地方の医療や福祉は衰退しているイメージがあったが、病院や介護施設などでは新しい取り組みがいくつも行われていることに驚いた。地域では、1つの症例に詳しいだけでなく、幅広い疾患に対応することが求められると思った。別の大きな病院に行ってもらえるかどうか、行く場合はその移動方法などもそれぞれ適した判断をしなければならないのは大変そうだと感じた。

○ 熊本大学 1年

私は、地域医療に関わる人間は、その地域を愛することが重要だということをこの実習で学んだ。今回お世話になった病院や施設の方々には地域の実状を理解し、そこにある問題の改善や解決のためにどんな方法があるか真剣に考えていらしかった。医療人が地域に愛着を持って初めて見えてくる問題があり、地域の方々の理解や協力がなければ実現できない試みも多くあった。医療と地域の双方向の想いを分かち合えてこそ、適切な対策を取れることに気付けたため、今回の実習の達成度はかなり高く感じられる。

○ 熊本大学 1年

今回の実習で、地域医療に関わる様々な施設を幅広く見学し、実際に現地で医療、介護に従事するの方々のお話を聞くことができ、非常に充実した2日間を過ごすことができました。現場で医療に携わるの方々のお話を聞いて最も印象に残ったことは、医師1人では不可能なことが地域医療においては非常に多く、そのため様々な職業の方々との協力、チーム医療の実践が必要不可欠であるということです。これを踏まえ、コミュニケーションを取りながら適切に判断を下すことができる、リーダーシップをもった医師が地域医療で求められる医師像であると考えました。

○ 熊本大学 1年

今回の冬季地域医療特別実習では自分の目標である「地域医療の実態を知ること」を達成出来たと思う。今回の訪問先では常に連携を大事にしていることを学んだ。そういった中で最新のインターネットシステム等を活用により良い医療を提供できるようにする努力を感じた。地域ではこういった連携の中でリーダーシップを発揮できることに加え地域のニーズに答えられるような医師が理想だと考える。

○ 熊本大学 1年

冬季地域医療特別実習は、地域の現状を知るという点では達成感のあるものとなりましたが、個人的には見学に終始し、受け身の学習になりがちだったと感じております。実習では医療・福祉・行政、更には復興の試みを多角的に知ることが出来ました。これは座学では得ることの出来ない貴重な経験だったと思います。地域医療は資源が限られているからこそ、医療を施す人のホスピタリティで医療の質や充実度が大きく高まると思います。地域で働く上ではその地域の住民に関心を持ち、医療問題に主体的に関わろうとする積極性を持った医師になりたいです。

○ 熊本大学 1年

冬季地域医療特別実習においてかなり大きく学びを深めることができました。特に、介護保険施設においては阿蘇市における高齢者医療の現状を知ることができて、大変参考になりました。小国町の介護施設では職員にも60歳以上の方が多く老老介護の実態や、行政と実際の現場の乖離による経営の難しさなどの話を聞くことができました。また、この実習で将来の自分の目指す医師像をより明確にすることができました。それは、地域の人の医療の柱となるような必要な知識を身につけた医師になりたいです。

○ 熊本大学 1年

今回の冬季地域医療特別実習では、個人的に気候や地形などを中心に学びたいと思って臨みました。様々な病院に訪問する中で特に、立野病院で阿蘇の土地について深く学ぶことができました。また、全体を通して小さい病院にしかできないことや、他病院との連携について学ぶことができました。この実習を通して、たくさんの人や病院と連携が取れる人脈を持った人が地域医療で求められるのではないかと思います。

○ 熊本大学 1年

実習に参加する前は、地域医療とは高齢者を中心とした医療を提供するのかとか、あらゆる疾患を診断して治療することが大切なのだろうなど大まかなことしか分かっていませんでした。しかし地域医療が今後の日本の医療体制を先駆けていて、その対策を考えて実際に行っていることを学んだり、あらゆる診療所で実際に働く医師の話を聞いて地域医療とはどういうものなのか、何が求められるかを考えるいい機会になりました。地域医療について改めて考え直すことが出来たので初めの目標も達成することが出来ました。地域で活躍できるような医療人になるために、様々な症状を診断して治療できるだけでなく、その地域にあった医療を提供していきたいと考えました。地域医療は見本があったりするのではなく、自分で模索しながら行動できるようになりたいです。

おわりに

令和5年度の夏季ならびに冬季地域医療特別実習のご報告にあたり、実習にご協力いただきました関係者の皆様方に深甚なる感謝を申し上げます。

この実習は熊本県医師修学資金貸与学生ならびに熊本県出身の自治医科大学医学部生を対象として毎年夏に開催されておりました。地域を知り、地域医療への理解を深める貴重な機会ではありますが、COVID-19感染症の蔓延により令和2・3年度は中止となり、令和4年度も実習を計画するものの、直前に中止せざるを得ない状況が続いておりました。本年度は皆様の多大なご協力をいただき、1泊2日の日程ではありますが夏季と冬季の2回にわたる地域医療特別実習を無事に開催することができました。

私も夏季実習に初めて参加させていただきましたが、1泊2日とはいえ事前学習も含め学生にとっては濃密な実習であったと思います。また天候にも恵まれ、青空のもとでフィールドワークも行うことができ、学生とともに汗をかきつつ地域の生活について学ぶことができました。

今後も学生の地域医療に対する学びを深めてもらうべく、尽力して参りますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

熊本大学病院
地域医療支援センター 副センター長
地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任准教授
荒木 智

熊本県地域医療支援機構／熊本大学病院 地域医療支援センター

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘 1-1-1

Tel : 096-373-5627 Fax : 096-373-5796

E-mail : chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

ホームページ : <https://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>



熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘 1-1-1

Tel : 096-373-5794 Fax : 096-373-5796

E-mail : chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

ホームページ : <https://kumadaisoushin.com/>



